

令和5年度 研究報告書

小学校外国語科における思いやりの育成を目指した授業実践

令和4年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース

222-A9704 佐藤 遥

令和5年度 研究報告書

小学校外国語科における思いやりの育成を目指した授業実践

指導教員 黒山竜太 准教授
浦川健一郎 シニア教授

令和4年度入学
熊本大学大学院 教育学研究科
教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース
222-A9704 佐藤 遥

目次

研究報告書要旨

はじめに	1
第1章 研究の構想	3
第1節 研究の背景と目的	
第1項 外国語科導入の経緯と変遷	
第2項 言語活動について一目的・場面・状況を設定することの必要性	
第3項 思いやりを育むことの重要性	
第2節 先行研究の分析	
第1項 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導	
第2項 ごっこ遊びを取り入れた外国語活動	
第3節 本研究の目的	
第2章 研究の実際	11
第1節 実践に向けて	
第1項 児童の実態	
第2項 実践で大切にしたいこと	
第2節 実践1（研究課題の明確化に向けた実践）	
第1項 授業の構想	
第2項 授業の実際	
第3項 授業実践の結果及び小察	
第3節 実践2（実践1をより発展させた実践）	
第1項 授業の構想	
第2項 授業の実際	
第3項 授業実践の結果及び小察	
第3章 総合考察	56
第1節 研究の成果	
第2節 今後の課題と展望	

引用・参考文献

謝辞

卷末資料

小学校外国語科における思いやりの育成を目指した授業実践

熊本大学大学院教育学研究科

教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース

222-A9704 佐藤 遥

報告書要旨

私は教育現場に出た際、相手の立場に立って、物事を考えることができるような思いやりの心をもつことができる児童を育てたいと考えている。思いやりとは予測困難なこれからの時代においても AI にとって代わることのできないものである。しかし、非常勤での外国語科の授業を振り返ってみると知識・技能のみを重視した学びのみと、様々な児童と触れ合う中で、やり取りの際に、いつも同じ人で行う児童や、自ら進んで話しかけることができないという児童の姿を目にしてきた。思いやりを育成するために、外国語科での資質・能力の育成の視点が有効ではないかと考えた。そこで本実践においては、外国語科の授業を中心に、児童たちが相手の立場に立って物事を考えたり、認め合ったりしていけるような学級経営を行いたいという思いから本題目の設定に至った。

第1章では、本実践を行う背景として、外国語科の導入の経緯と変遷、言語活動における目的・場面・状況を設定することの必要性、思いやりを育むことの重要性、そして先行研究について述べた。

第2章では、研究の実態として、児童の実態と本実践で大切にしたい3つの視点である、「児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導」「必然性のある目的・場面・状況の設定」「児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫」、そして実際に行った2つの実践を本実践で大切にしたい3つの視点から振り返り、思いやりアンケートの結果や児童の記述から考察した。

第3章では、本実践で大切にしたい3つの視点から実践全体を振り返るとともに、今後の課題について述べた。その結果、教師の価値づけにより、やり取りの中で意識すべきことが明確化し、児童が思いやりをもって目的へ向かって取り組むことが分かった。今後は、グループ活動での机間指導の充実、振り返りの時間の確保、学級経営や教科横断的な学習の中でも思いやりを育成していくことなどが考えられる。

【キーワード】 小学校外国語科 思いやり ロールプレイング 机間指導による価値づ

け

はじめに

筆者は、教育現場に出た際、思いやりの心をもつことができる児童を育てたい。なぜなら、クラス内で互いのことを思いやることのできるような雰囲気があれば、他の人の意見を聞き、自分の意見と照らし合わせ、お互いの良さを知ったり、友達が困難な状況になったときに声をかけ、協力し、乗り越えたりすることができると思うからである。それは、これからの予測困難な時代といわれる society5.0 を生き抜く児童たちにとって AI などの科学技術に代わることができない部分だと考える。

また、筆者は教職大学院での 1 年間、実習校にて非常勤講師として、外国語活動及び外国語科の授業を実践した。その経験の中で、最初は外国語活動及び外国語科において、ただ英語の文法を使ったやり取りを行えているか、英語で話せているか否かという知識・技能面では児童たちの学びをみとることができていなかった。そのような中、実習や非常勤にて、様々な児童と触れ合う中で、「英語が話せない」「自分から進んで話しかけることができない」「間違ったらどうしよう」という英語に自信がなく、間違いを恐れる児童たちや、常に同じ人とやり取りの練習をする児童の姿を目にしてきた。学校とは、間違いを通して学びを深める場所であると感じるし、筆者自身の外国語活動、外国語科の授業を振り返り、文法のみを使って学ぶ、いつも仲の良い友達とだけ練習を行う児童の姿を見て、本当にこのままで良いのだろうかと疑問に思った。筆者は外国語の言語習得において、安心して間違えることのできる環境はとても大切だと考える。英語を苦手とする児童たちは間違えたらどう思われるのかと周りのことが気になってやり取りを積極的に行えていないのだろうと感じた。特に実習校は塾に通っている児童も多く、学力が高い児童も多い。なおかつ、外国語だけではないが、できないことに対する不安を感じる児童が多いことも実態としてある。外国語を通して、得意な児童は相手によって、どのように工夫したら分かりやすく伝えることができるのかを考えることが必要であり、反対に苦手な児童は友達に教えてもらいながら練習したり、どのようにすれば今ある言語材料だけで伝えたいことが伝わるのかを試行錯誤したりすることで、実際のコミュニケーションの場で生きる力を身に付けることができると考える。

【思いやり】というテーマは、筆者が教育現場に出て、学級担任になった時に大切にしたいことであり、児童たちにも大切にしてほしいと思っていることである。お互いの良さを認め合えるようなクラスの支持的風土をつくるためには、授業は 1 つの要因に過ぎず、それだ

けで支持的風土をつくり上げることは難しい。そこで、教職大学院での実習を通して、担当クラスの児童たちの実態や担任の先生の声かけ、学級経営など、担任の先生が大切にされていることを知り、これからの自分の学級経営に活かしていきたいと考えた。

こうしたことから筆者は「小学校外国語科における思いやりの育成を目指した授業実践」という研究テーマで実践を行おうと考えた。

第1章 研究の構想

第1節 研究の背景と目的

第1項 外国語科導入の経緯と変遷

2002(平成14)年7月に文部科学省によって策定された『英語が使える日本人』の育成のための戦力構想」の中で行われた小学校英語活動実施状況調査によると、2003(平成15)年には全国小学校の約88%が何らかの形で英語活動を実施していることが分かり、2007(平成19)年度には約97%にまで達している。このような状況から、2006(平成18)年3月に、中央教育審議会外国語専門部会は、「小学校における英語教育について(外国語専門部会における審議の状況)」の中で、「高学年においては、中学校との円滑な接続を図る観点からも英語教育を充実する必要性が高いと考えられる」とし、教育内容としての一定のまとまりを確保する必要性を考えると、年間35単位時間程度の共通の教育内容を設定することを検討する必要があるとした。これを受け、2008(平成20)年1月中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善(答申)」の中で、小学校段階の外国語活動においては「小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことを目的とする外国語活動については、現在、各学校における取組に相当ばらつきがあるため、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。その場合、目標や内容を各学校で定める総合的な時間とは趣旨・性格が異なることから、総合的な学習の時間とは別に高学年において一定の授業時数(年間35単位時間、週1コマ相当)を確保することが適当である」とし、外国語活動の新設がされた。つまり、もともとは国際理解教育の一環として総合的な学習の時間の中で補われていた英語活動であったが、英語活動を実施している学校の割合が上昇し、教育機会等の確保と中学校との円滑な接続等の観点から総合的な学習の時間では趣旨、性格も異なるため、新たに2010(平成22)年の学習指導要領改訂において、小学校5・6年で週1時間の外国語活動が導入され必修化された。2020(令和2)年の小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編(以下、小学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編解説とする)によると、2011年度から小学校の外国語活動が導入され、その充実により児童たちの外国語学習への高い意欲や外国語教育への積極性の向上といった成果がみられた。同じく、同解説によると、音声中心で学

んだことが中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、日本語と英語の音声の違い、英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題があること、そして、高学年は抽象的な思考が高まる段階であるため、より体系的な学習が求められること等が課題として挙げられていた。このような成果と課題を踏まえ、2020(令和2)年に改訂された小学校学習指導要領で、外国語の教科化がなされ、3・4年生から週1時間の外国語活動、5・6年生では外国語科として週1時間から週2時間変わった。そのため、今までの改訂とは異なり、外国語科においては教科として「できること」を求められるようになった。本研究では、知識・技能面よりも思考力・判断力・表現力等の部分に重きを置くが、もちろん知識・技能面で児童がつまづかないような手立てを用意する必要がある。また、小学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編において、5・6年生では、聞くこと・話すことに加え、読むこと・書くことも取り扱うこととなった。それにより、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な単語や基本的な表現を書き写したり、例文を参考に書いたり、書くことについても細やかなステップを踏む必要がある。「読むこと・書くことが導入されたが、あくまで小学校の段階では音声中心に学習を進めていくことが重要である」と直山(2019)も述べているように、学習指導要領が新しく改訂され、教科化されたが、小学校段階の外国語指導については、音声(聞くこと・話すこと)中心の学習を意識する必要がある。

第2項 言語活動について—目的・場面・状況を設定することの必要性—

言語能力について、中央教育審議会答申(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」は、「言葉は、学校という場において子供が行う学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。したがって、言語能力の向上は、学校における学びの質や教育課程全体における資質・能力の在り方に関わる課題」とされ、その育成を求めている。また、外国語においては、小学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編解説において、「相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識を総動員して、自分の思いを伝えようとしたりする体験を通し、コミュニケーションを図る難しさを改めて感じることは言語によるコミュニケーション力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながる」としているため、日本語だけではなく外国語を通して、日本語の良さや多言語との違いを見つけることで言語能力の育成、向上につなげていかなければならないことが分かる。

表1 外国語活動・外国語科と言語活動

小学校外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(文部科学省(2017年)より引用)

表1の小学校、中学校の外国語活動、外国語科の学習指導要領の目標をまとめたものである。小学校外国語活動、外国語科、そして中学校外国語科においても目標に「言語活動を通して」という文言が入っていることが分かり、言語活動を軸として外国語活動、外国語科における資質・能力を育成していく必要があることが読み取れる。特に小学校では、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力の育成することが求められている。「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(2017)によると、外国語活動、外国語科での言語活動とは、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」とされている。小学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編解説では、「言語活動を行う際には、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語の目的や使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすること」と示している。このことから、児童が互いの本当の考えや気持ちを英語で伝え合う活動をするためには、言語の目的、使用場面を意識させるために、教師が目的・場面・状況を具体的に設定し、児童に意識付けていくことが大切なことが分かる。

また、小学校学習指導要領(平成 29 年告示)外国語編解説によると、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、外国語とその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、情報を整理しながら考えを形成し、再構築すること」とあり、小学校学習指導要領における外国語科の第 1 の目標(3)「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関わる目標にも「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」とある。目標の中に「他者に配慮しながら」とあるが、5・6 年生では読むこと、書くことも扱うようになり、コミュニケーションを図る対象が必ずしも目の前の相手ではないため、言語活動において、相手の理解を確かめながら、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返したりしながら聞くといった相手に十分配慮することが重要であると述べられている。

加藤ら(2021)も「目的や場面、状況に応じて、言い方を考え相手や設定に合わせて工夫し、自己表現していく中で起きる学びが言語活動の目指すもの」と述べているように、外国語科の学習において言語活動を行っていく上で、必然性のある目的・場面・状況の設定は必要不可欠である。そのため、教師が目的・場面・状況の設定を工夫することで、児童は、より相手のことを意識したやり取りをすることができ、外国語科の中で思いやりを育めるのではないかと考えた。

第 3 項 思いやりを育むことの重要性

中央教育審議会答申(2021)『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』では、急激に変化する時代の中での育むべき資質・能力として、「文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」が挙げられている。一方で、「豊かな情操や規範意識、自他の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成等を図るとともに、子供のころから各教育段階に応じて体力の向上、健康の確保を図ることは、どのような時代であっても変わらず重要である」とも述べられている。つまり、これからの時代に向けて、外国語科においては、外国語科固有の見方・考え方を働かせ、児童たちが自分の頭で考え表現する力も必要であるが、人工知能やビッグデータ、先

端技術が高度化し社会生活に取り入れられたとしても自尊尊重や他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力等といった、人間だからこそできるコミュニケーション能力や思いやりの心の育成していくことの必要性についても述べられていることが分かる。

思いやりと聞いたときに教科として思い浮かぶのは道徳が基本だが、小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)総則編解説には、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特性に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと」とある。つまり、道徳教育は道徳科だけで行うのではなく学校の教育活動全体を通して行うものであることが分かる。

小学校学習指導要領(平成 29 年告示)道徳編解説によると、5・6 年生の「親切、思いやり」の内容項目には「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」と示されている。またその発達段階においては、自他を客観的に捉えることができるようになってくることで、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになること、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。そのため、指導については、特に相手の立場に立つことを強調する必要があり、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことが大切であることが述べられている。このことから、5 年生は、人間関係で関わる範囲が広がるため、相手の立場に立って考え、自分がどのように接することが、相手のためになるのかを考える必要がある時期であること、そして、思いやりの心や行動を児童が接する人に広げていくことが重要であることが分かる。そのために、外国語科の中でも相手の立場に立って考える場や思いやりの行動を共有する場を設ける必要があると考える。

小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)外国語編解説の指導計画の作成と内容の取扱いでは、外国語科における道徳教育の指導について、先ほども述べた外国語科の第 1 の目標(3)の「『外国語の背景にある文化に対する理解を深める』ことは、世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。また、『他者に配慮する』ことは、外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育て

ることにつながる」と述べている。以上のことから、外国語科の学習では、他者に配慮し、多面的思考ができることにつながるため、外国語科において、思いやりを大切にすることで、道徳教育とも相互に効果を高め合うことができることが分かる。

第2節 先行研究の分析

思いやりを育むというテーマではないが、思いやりを言語レベルでやっていくための手段として、机間指導を工夫した実践や、ロールプレイングをごっこ遊びと称して行われた実践的研究はある。以下、それらについて述べたい。

第1項 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導

大分県教育委員会(2018)のホームページにて、6年生の教科書 We can!2 の「Unit8 What do you want to be?」の単元において、児童の実態に合わせて4つの Good ポイントカードを作成し、やり取りの練習で、4つの Good ポイントのうち、できていた内容に即した色の付箋を児童に張っていくという取り組みを紹介している。実践の内容としては、最初の段階では Face(表情・目線)、English(英語だけで)、Gesture(ジェスチャー)、Heart(相手の気持ち)の4つを提示していたが、教師が机間指導で価値づけを行っていく中で、それらの4つができるようになった児童が増えたことから、進化バージョンとして Response、Reaction(反応を返して)、Go on(続けて)、Make sure(確認して)、Other idea(言い換え・工夫)の4つに変更して実践を行ったというものである。このように、児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導を教師が行うことで、児童にやり取りの練習の中で何を大切にすればいいのかを明確に示すことができるため、本研究でも4つの観点を示し、机間指導をしたいと考えた。詳しい内容は第2章で述べた。

第2項 ごっこ遊びを取り入れた外国語活動

ごっこ遊び(ロールプレイング)とは、文部科学省(2008)「別冊 人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] 実践編 3. 指導方法の在り方」を参考にすると、学習者によって演じられる短いドラマであり、演じたり、模倣したりする疑似体験を通して、状況についての理解を改善、その状況に関わっている人々への感情移入の促進をすることができるものである。

山崎(2013)は、「お寿司屋さんごっこ」遊びを導入した授業実践の効果を明らかにするものとして、①児童が目指すゴールの意識化、②1校時の授業構成の工夫の2つを行った。①について

は、単元の終わりに「英語でお寿司屋さんごっこをする」という明確なめあてをもたせることで児童が課題に対してやってみたい、できそうだななどの見通しがもてたとき、児童の興味や関心が引き出され、大きな力を発揮できると考えた。また、授業の初めに MT(メインティーチャー)と ST(サブティーチャー)でモデリングを行い、目標を意識化させた。②については児童がより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるために、繰り返し活動を取り入れ、理解と自信をより確かにすることが大切としている。具体的に授業の固定化と場の設定、1校時の授業構成の2つを挙げている。授業の固定化と場の設定については、復習から新しい表現(易から難へ)を意識したスパイラルに取り組む授業展開【あいさつ→教師によるモデリング→前時の復習→新出表現→チャンツ→新出表現→あいさつ】を行い、1校時の授業構成については、【聞く→話す→効果的なチャンツ】の導入を行った。授業後の6項目の自己評価アンケートと自由記述をもとに分析し、その結果、児童はこの実践を好意的にとらえていた。山崎(2013)は、「身近な題材を取り入れること、コミュニケーションの素地を養う上で、「ごっこ遊び」をしながら楽しく活動することは有効であった。児童が行う客と店員の気持ちのよい英語を使った会話を通して、相手の立場に立って考えるという思いやりをもつ姿を見ることができた。「ごっこ遊び」を通して人間関係づくりのきっかけの一つとして考えられるだろう」と述べている。今回の筆者の研究では、思いやりを育むための方法の1つとしてごっこ遊びを通じて、相手に対して思いやりをもって接する児童が増えるのかについても検証していきたい。

山崎(2013)の実践で行われた1校時の授業構成の工夫については、思いやりをテーマに行っていく上でも、外国語学習としても効果的であると考えたため、本実践では、聞くことから話す活動へ進めていくこと、毎時間、復習の時間を入れつつ、教師とALTによるモデリングの時間を定期的に入れながら実践を行い、児童が目指すゴールの意識化については参考にした。具体的にどのようなゴールに向かうのかを児童が理解することで、安心して言語活動に臨むことができ、思いやりをもったやり取りについて考えることができると考えた。チャンツの導入については、今回は英語を使って実際にやり取りすることや、相手のことを考えるために時間を使ったため、実施しないこととした。

ごっこ遊びについて研究し、レストランごっこを主体とした英語活動に関する授業を実践した石濱(2002)は、「高学年であっても児童を主体的に活動させるためには、英語活動の中にごっこ遊びを取り入れても良い」「英語活動のねらいを明確に各々の役割を分担していけば、児童が「ごっこ遊び」の効果で英語をいえるようになったという自信をつける可能性がある。英語を覚え、それを表現したいという意欲を促進するだろう」と述べている。このように、

先行研究をもとに、ごっこ遊び(ロールプレイング)を取り入れることで外国語を話したいという意欲の向上、そして思いやりの心を育むきっかけになると考えたため、本研究でもロールプレイングを1つの手段として取り入れた授業を実践する。

第3節 本研究の目的

第1節では、小学校においてどのような流れで外国語活動、外国語科が導入されたのか、小学校の外国語科の中で思いやりを育むことの必要性について述べた。中央教育審議会答申(2021)に「急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」と述べられているように、コンピュータやAIが発達したとしても人間同士のコミュニケーション能力や、他者のことを認め、思いやりの心を育成していくことが重要な課題とされている。また、外国語科での言語活動では、必然性のある目的・場面・状況の設定が重要になるため、教師がその場を提供することが必要であるということ述べた。

第2節では、先行研究から思いやりを育む上で、授業での教師の机間指導で児童の行動の価値づけを行うこと、ロールプレイングは1つの手段として有効であることについて述べた。これらの先行研究を参考に、外国語科の授業の中で児童の思いやりを育成するための方法を考えていく。

以上より、本研究では、外国語科の授業を通して児童の思いやりの心を育み、相手の立場に立って物事を考えて行動しようとする児童を育てることを目指した授業実践を開発することを目的とする。そのために、①児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導、②必然性のある目的・場面・状況の設定、③児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫の3つの視点を取り入れた授業を行う。また、評価方法としては、単元前と後で児童にアンケートを実施し、その変容をみていくこと、そして授業での児童の様子、ロイロノートやワークシートの提出物から、児童たちにどのような形で思いやりが育成されているのかをみていく。

第2章 研究の実際

第1節 実践に向けて

第1項 児童の実態

本研究における授業実践は、実習に行っている熊本市内の小学校第5学年の3クラスの児童である。1組、2組、3組ともに36名の合計108名の学年である。担当クラスの5年1組の児童の実態としては、担任の先生の学級経営案をもとにすると、「学校行事や授業に取り組む姿から、高学年として頑張ろうという意欲に満ちた姿が見られる。また、困っているクラスメイトがいると声をかけたり、手助けしたりできる思いやりの素地はある。その反面、休み時間になると、4年生まで同じクラスだった友達と過ごし、新たな人間関係を築こうと積極的に動く姿は見られない。また、発達段階から男女分かれて行動することが多く、女子はグループで過ごす姿が多くみられる。男子も荒々しい言葉やふざける姿も見られる。そういった実態から、発達段階でお互い意識することではなく、お互いを大切にできる人間関係を形成することができるように取り組んでいく」とのことだった。筆者から見たクラスの様子は、学習面では全体的に落ち着いており、基礎的な学習内容が定着していない児童や集中が続かない児童には、担任の先生による個別の支援や授業の中でその児童を中心に授業を進めるといった関わりが行われていた。学級全体としては、与えられた課題に対して積極的に取り組んでいた様子だった。

また、担任の先生は、年度当初の目標として、「家族のような温かな学級」を目指されており、自分と他者との違いを認め合い、違う価値観であるもの同士が共生できるようにしていきたいという信念のもと、学級経営において様々なことに取り組まれていた。

第2項 実践で大切にしたいこと

1. 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導

本実践では、筆者が相手とのやり取りで大切にしてほしいこととして、第1章の第2節第1項で述べた先行研究の Good point の中から、Face(表情・目線)、Gesture(ジェスチャーを使って)、Response・Reaction(反応を返して)、Make sure(確認して)の4つを選んだ。

この4つを選んだ理由としては、児童たちの実態や今回の研究テーマに沿って大切なポイントを基準に据えたということがある。まず Face(表情・目線)は、コミュニケーションを行う上で表情やアイコンタクトは、外国語科だけではなく、どのような時でも大切にほしいため選んだ。筆者は非常勤で児童たちの外国語でのやり取りを見る中で、紙を持ち、そこに書かれた文字だけを一生懸命見て、会話するという姿を多く目にしてきた。そこで、紙を見ずにリアルなコミュニケーションを意識してほしいと考えた。次に Gesture(ジェスチャーを使って)を選んだのは、自分の伝えたいことを何とかして伝えるための手法としてジ

ェスチャーを用いるということも、大切だと考えたからである。そして Response・Reaction(反応を返して)を選んだのは、コミュニケーションを行う上で、ただ黙って聞くよりも、反応を返してくれた方が相手にとっても話しやすい雰囲気を作れると考えたからである。黙って聞くよりも頷く、「I see.」といった反応が返ってくるだけで、英語を苦手と考える児童たちも、もっと話してみようと思いやすくなるのではないかと考えた。最後に Make sure(確認して)を選んだのは、コミュニケーションを行う際、分からなかったことや聞き取れなかったことに対して、「Pardon?」や「One more time please?」と聞き返すことも、重要なことであると考えたためである。

さらに、先行研究を参考に、4つの Good ポイントを視覚的に分かりやすくするために、図1のような掲示物を作成し、机間指導の中で児童たちのやり取りを見て、できていた部分を評価するという意味合いで、児童たちに付箋を手渡す。こうすることで、やり取りの中で何を重視すれば良いのか明確になり、児童たちが相手のことを考えながらやり取りをすることができると思う。以上のように、児童たちがやり取りをする上で大切にしてほしいことを机間指導の中で教師が価値づけを行うように心がける。



図1 児童へ提示する「Good ポイント」

2. 必然性のある目的・場面・状況の設定

先の第1章の第1節第2項で、小学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編解説が「言語活動を行う際には、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすること」と述べているように、外国語において、言語活動を行う上で児童が言語の目的、使用場面を意識してやり取りするために、必然性のある目的・場面・状況の設定は必須である。加藤(2021)らも、言語活動を計画する際には、児童にとって身近な題材であるか、意味のある本物のやり取りになっているかという視点をもって進めていく必要があると述べている。そこで本研究の実践においても、教師が目的や対象、場面、状況をできるだけ明確に児童へ提示し、児童が「やってみたい!」「わ

くわく！」となるように導入を工夫し、目的に向けて児童が相手意識をもち、どのように表現、行動を工夫することができるのかをみていく。具体的には、実践1、2どちらにおいても、単元の導入に単元の目的、ゴールをALTとのモデルで示し、児童の思いを大切にするために、実践1では、「熊本に初めて来たお客さん」、実践2では、「友達の紹介をしてもらった3年生」のそれぞれの対象にどのような気持ちになってもらいたいかを共有する。ただ言語活動をするのではなく、目的意識や相手意識をもって取り組むことができるような手立てを行うことを心がける。

3. 児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫

小学校学習指導要領(平成29年告示)道徳編解説によると、「思いやりとは相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる」と示している。また、学校生活では学校の人々や友達などの様々な人と関わり合いをもち、その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通し、思いやりの行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要であるとも述べている。このように、思いやりは様々な人間関係の中で相手のよさを認めたり、相手の立場に立って気持ちを考えたりすることで育てることができるものであると考えられる。そこで、授業の中でやり取りをする相手の良かったところや、自分のやり取りはどうであったかについて振り返る時間を設ける。こうすることで、友達にしてもらった思いやりのある行動や、自分自身が行った行動を実感することができると思う。

以上より、①児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導、②必然性のある目的・場面・状況の設定、③児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫、が関連し合うことで思いやりの心が育成されていくのではないかと考えた。

第2節 実践1（研究課題の明確化に向けた実践）

第1項 授業の構想

1. 目的

実践1では、実践2に向けての研究の課題を明確化することを目的とする。第2章の第1節で述べた3つの視点である「児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導」「必然

性のある目的・場面・状況の設定」「児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫」が授業の中でどのように効果があるのかを検証する。また、先行研究にもあったロールプレイングを通して、思いやりの育成に効果があるのかについてみていくことを目的とした。具体的には以下の【3. 実践上の工夫】でも述べたが、授業の見通しを持たせるために適宜、ALT とのモデルを提示する(Small Talk)、ペアワーク等での児童たちのやり取りの様子を見ながら教師の机間指導による価値づけを行う、ワークシートによって児童たち自身も友達や自分のやり取りを振り返ることができる時間を取り入れる。

2. 実施学年・実践内容等

(1)実施学年と時期

①実施学年：K 市内 K 小学校 第 5 学年 3 クラス(5-1 のみ 35 名で実施)

②実施時期：2023 年 6 月 23 日～2023 年 7 月 11 日

(2)実践計画

①単元：Unit7 「What would you like?」(光村図書 Here We Go! 5 P 82-87)

新出表現：What would you like? I'd like ～./ How much is it? It's ～yen.

②題材について

今回の題材は、レストランの場面で英語での食べ物、飲み物のたずね方や値段の言い方等を取り扱い、実際にレストランでのやり取りを行うことが目標である。日常生活においても児童はレストランで接客してもらった経験もあり、児童にとって身近な題材であるといえる。レストランの店員とお客さんという立場の異なる役をすることができるため、児童たちは互いの立場を行き来しながら、相手の立場に立って、どのようなやり取りをすると嬉しいのか、喜んでくれるのかと思いを膨らませるだろう。また、レストランの人になりきってもらうために、お客さんを「熊本に初めて来るお客さん」を想定してグループごとに熊本の特産品、名物を取り入れたメニューを作成させ、単元の最後にはお客さん役、店員役に分かれて実践を行う。食べ物や飲み物のたずね方や値段の受け答え以外にも、店員として接客するときどのような声かけや工夫ができるのかをロールプレイングをする中で体験的に学ぶことができると思う。このことから、児童たちの思いやりを育てる上で相手の立場に立って考えることに適した題材であると考えられる。

【予想されるやりとりの例】

A: What would you like?

B: Umm… (注文を悩む)

A: What taste do you like?

B: I like (sweet, spicy, sour, …).

A: It's (from Kumamoto, sweet, rich, …) (おすすめの一言を伝える)

B: I'd like ~.

A: How much is it?

B: It's ~yen.

A: Here you are.

B: Thank you!

③指導上に当たっての留意点

本題材は、レストランにおける英語での食べ物や飲み物や値段の丁寧なたずね方や答え方について知るものである。その中でも目的、対象について考えた児童の思いを大切にしたいため、1時間目に英語で言えるようになりたいと児童たちから多く出てきた食べ物や飲み物を2時間目のやり取りで使うワークシートに入れておく。また、既習事項として、4年生の副読本 Let's Try!2 「Unit7 What do you want?」の単元、そして5年生の教科書 Here We Go!5 「Unit2 When is your birthday?」の単元でほしいものをたずね方、答え方の表現を学んでいる。本題材では丁寧に伝える時には表現がどのように違うのかについて気付かせたいため、単元の導入で「What do you want?」と「What would you like?」のやり取りを聞かせ、児童が違いに気付くことができるような指導を行う。2時間目では食べ物や飲み物を丁寧にたずねる言い方を Small Talk として児童に提示し、3時間目にはお客さんが悩んでいるところに店員がおすすめを伝えるという2時間目と異なる Small Talk を児童たちに見せ、違いに気付かせるようにする。メニューは飲み物の言い方も練習してほしかったため、教師が4つの食べ物と1つの飲み物は必ず入れようという声かけをした上で、メニューをグループごとに作成する。

表2 単元計画(全6時間)

時	学習内容	思いやりの視点
1	熊本の有名な食べ物を使ってメニューを考える。(グループ)	熊本に初めて来るお客さんを想定してメニューを考える。

	<p>特産物、農産物を使った料理を考える。 トマト、キャベツ、なす、デコポン、 からしレンコン、だご汁、馬刺し等 前回の授業(What do you want? I want ～.)と比較した Small Talk を行う。</p>	<p>レストランで心温まる経験、場面を 共有する、本单元でも思いやりを意 識していこうと伝える。</p>
2	<p>丁寧な言い方で料理を注文する。 教 84-85 Let's listen、ストーリーを見な がら、料理を注文するときの丁寧な言い 方を知る。 What would you like? I'd like ～. 児童が好きなものを選び、注文する練習 をする。</p>	<p>やり取りをする上で大事にしてほし い 4 つの Good ポイントについて説 明し、机間指導を行う。</p>
3	<p>ものの値段をたずね合う。 Level up した Small Talk を行う。 教 86-87 How much is it? It's ～ yen. What taste do you like? I like ～. How are you? I'm ～. 1500 円以内で友達と値段をたずね合う。</p>	<p>4 つの Good ポイントを使った机間 指導を行う。 ワークシートでやり取りの自己評価 を行う。</p>
4	<p>お客さんに頼んでもらえるように、おす ずめの一言を考える。 It's (from ～, fresh, famous in ～). 練習も兼ねて、家の人とロイロノートで やり取りを撮影してくることを伝える。</p>	<p>お客さんの立場に立って、料理をど のようにおすすめめしたほうが良い かを考える。</p>
5	<p>レストランごっこ本番に向けて練習す る。(グループ)</p>	<p>4 つの Good ポイントを使った机間 指導を行う。 お客さん役に評価をしてもらう。 ワークシートでやり取りの自己評価 を行う。</p>

6	レストランごっこを行う。(本番) 単元の振り返りをする。	4つの Good ポイントを使った机間指導を行う。 ワークシートでやり取りの自己評価を行う。4つの Good ポイントが良かったペアを全体で紹介する。
---	---------------------------------	--

3. 実践上の工夫

(1) 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導

先の第2章の第1節でも述べたように、Face(目線・表情)、Gesture(ジェスチャーを使って)、Response・Reaction(反応を返して)、Make sure(確認して)の4つの Good ポイントを単元導入時に、やり取りをする際に大切にしてほしいこととして示した。4つの Good ポイントについては教師が、「Response・Reaction って例えばどんなものがあるかな?」と問い、「I see.」「OK」、「うなずくもかな」といった児童からの言葉を拾いながら、具体的なものを考えさせ、やり取りに向かわせるようにした。ペアでやり取りをしている際に、「Good face!」等とできていることについて声をかけながら、黄色の付箋を児童に手渡し、ワークシートに張らせた。教師が机間指導の中で、積極的に声をかけながら児童たちの行動の価値づけを行うようにした。

(2)グループで作成するメニュー表

右の図2は授業のグループ内で作成するメニュー表の例として児童へ配布したものである。5つの4線には食べ物や飲み物を書き、吹き出しにその食べ物や飲み物に関するおすすめの一言を考え、書かせた。商品の値段や、レストランの名前もグループごとで設定して良いと伝え、活動させた。グループで活動をさせ、名前や値段も設定させることで、それぞれのグループで他の人の意見を取り入れながら、楽しく活動できるように工夫した。

5-	No.	Name

図2 レストランのメニュー表

(3)ワークシートの工夫

図3は実際に授業で使用したワークシートの上部である。お客さん役からの評価を👍、◎、○の3つの段階で評価させた。F、G、R、Mはそれぞれ提示した4つのGoodポイント(Face、Gesture、Response・Reaction、Make sure)ができていたかを評価する部分で、□の部分は、注文を伺う、値段を答える、おすすめの一言を伝えることができたかの3つを評価する部分とした。また、お客さんからのメッセージの部分には、お客さん役になった人からコメントを書いてもらえるようにした。熊本の英語授業研究会でのT先生の実践に、相互に評価させる際、語句・表現の正しさ、内容面・構想面の工夫、聞き手を意識した工夫の3つの観点から評価をさせ、アドバイスタイムに、発表者が3つのうちどれか1つ選び、聞く人にその観点を伝えて評価してもらおうというものがある。これを参考にし、4つのGoodポイントのうち、1度に全部見てもらうのではなく、自分はここを見てほしいと1つ選び、相手に伝え、評価してもらっても良いことにした。こうすることで、英語が苦手な児童の英語を話す、友達に評価されるというハードルを少しでも下げることができると考えた。

Unit7 What would you like? ⑥

5-__ No. __ Name _____

Today's goal: 相手のことを考えながらレストランでのやりとりをしよう!(本番)

★レストランでのやりとりを練習し、相互評価をしよう!(🍷◎◎)

お客さんの名前	F	G	R	M	□	お客さんからメッセージ(具体的に)

図3 6時間目に使用したワークシート(上部)

図4は、先ほどのワークシートの下部である。振り返りを行う際、思いやりをもってやり取りができたかを5段階で自己評価し、その理由を書かせるようにした。また、4つの Good ポイントについて自己評価を行う時間を毎時間の最後に設けた。こうすることで、自分が行ったやり取りを4つの Good ポイントにもとづいて振り返り、やり取りで意識することが明確化できると考えた。

★振り返り	
1. 相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やりとりできましたか？ できなかった 1 2 3 4 5 できた <u>・そう考える理由</u> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	4つの Good ポイント ◎○△
	Face 目線・表情
	Gesture ジェスチャー
	Response・Reaction 反応して(うなづく等)
	Make sure 確認して

図 4 6 時間目に使用したワークシート(下部)

4. 授業の評価方法

(1) 思いやりについてのアンケート

児童の思いやり行動についてアンケートをとり、山村・中山(2012)の小学生を対象にした思いやり行動の調査結果をもとに Google form にてアンケートを作成し、単元前と後でどのように変容したかをみていく。

山村・中山(2012)によると、小学生の思いやり行動は、主に①行動的援助(援助、教授、忘れ物、支援、帰り)被援助者の活動に対する具体的援助が生起するもの、②心理的援助(声かけ、慰め・励まし、配慮、応援、低学年、相談)配慮や慰めなど、心理的側面へアプローチする支援、③協力的行動(勧誘、集団行動)集団活動を円滑にするために行われるサポートや活動への勧誘行動、④緊急的行動(コスト、救護)緊急性が高い、または比較的成本が高い行動、⑤非表出的行動(非表出)高社会性に基づく、具体的援助が生起しない行動の5つのカテゴリーに分かれる。この調査結果からは、成人期と同様に行動的援助が最多であり、児童期後期になると、日常的な態度や非表出行動も思いやり行動として挙げていたことが分かった。

今回、筆者の研究では、多く回答として挙がるであろう行動的援助、心理的援助の項目から1部抜粋して表3のアンケートを作成した。

表3 思いやりに関するアンケート項目（実践1）

- ①友達がこまっている時に手伝っていますか。
- ②友達が勉強や分からないことで、なやんでいたら教えていますか。
- ③1人での友達を見かけたら声をかけていますか。
- ④友達が落ち込んでいたらなぐさめたり、はげましたりしていますか。
- ⑤友達が頑張(がんば)っている時に応えんしていますか。
- ⑥「最近」、あなたが見かけた、『思いやりがあるな』と思った、友達の行動を教えてください。

項目①～⑤に関しては、4:よくしている、3:まあまあしている、2:ほとんどしていない、1:していない、の4段階で評価させた。項目⑥については自由記述とし、何もない場合は特になしと書かせ、書かれた数の変化、分類を行う。

(2)児童の授業での様子や成果物

授業中の発言記録や、児童の様子、実際に作った成果物などにも注目して授業を振り返ることとした。

第2項 授業の実際

第1時「メニューを考えよう！」（6月23日）

いつもはあまり前に出ない児童にデモンストレーションに参加してもらった。5-3では元気な児童にあてたが、とても良い例になってくれた。例えば、聞き取れなかったときに「One more time?」と聞いたり、役になりきって言ってくれたり、Clear voiceで言ってくれたりした。今まで児童を前に出して Small Talk をすることがなかったが、児童を Small Talk で例として提示して良かったと思った。オリジナルメニューを作ることはみんな積極的に取り組むことができた。3クラスとも、レストランで心温まった経験はあるかと聞いたときに、具体的なイメージをもってほしかったが、あまり意見が出てこず、結びつきが薄かったと感じた。またメニューの幅が広すぎて、選びきれないグループがいたため、そこから自分の食べたことのあるものといった、メニューを選ぶ視点を示しながら内容を絞っていく時間を設けるべきだと感じた。

第3時「1500円以内で料理を注文しよう！」(6月30日)

4つの Good ポイントについてあまり触れずに活動に入ってしまったため、「この付箋は何？」と児童に聞かれることがあった。教師と ALT で机間指導にて4つの Good ポイントを評価してまわったが、4人、5人を見てまわるのがやっとだった。課題として、教師が見ているところでしか評価してあげることができない。4つを複合的に網羅している児童がいる場合や How about ~?とといった+αの内容を伝えている児童、すらすらやり取りできている児童も評価してあげたいと思った。振り返りの時間があまり確保できなかった。もっとメニューを増やしたいという児童たちがいた。1500円以内で注文しようという活動は、ワークシートに書かれた食べ物の値段を100円~600円に制限し、1人の相手につき1つだけ注文してというように指示したため、いつもよりは多くの人に関われたのではないかと思った。全体として、活動自体は楽しくできていた。

第5時「本番に向けて準備しよう！」(7月7日)

6時間目は他のグループの人とやり取りすることを伝え、「本番に向けて何をしたらいいかな」と問いかけたところ、「おすすめの一言を考えなきゃ、練習したい」という声が上がった。おすすめの一言を考えられていないグループもあったため、他のグループのおすすめの一言を共有し、お客さんに分かりやすい一言を考えさせ、グループ内で練習するようにした。グループ活動がはかどる班とそうでない班にばらつきがあった。練習を優先してほしかったが、メニュー、値段、おすすめの一言を考えるところまでしかいけなかったグループが何個かあった。同じグループ内で練習させたが、分かりやすかった、よかった、全部🍣のように、お客さん側として具体的な内容を書いている児童が少なかったため、こんな表現があってよかった、笑顔でアイコンタクトをとってくれて嬉しかったなど、お客さんの評価する視点を明確に示すべきだと感じた。

活動中にもっと付箋を配れるようにし、おすすめの一言に関しては、「なぜその一言が必要だと思うか、どんな気持ちで言ったらいいか」と問いかけ、その時の気持ち、言葉の必要性を日本語で表現させることで、英語でのやり取りも臨場感をもって行えると考えた。

第6時「お客さんのことを考えてやりとりをしよう！」(7月14日)

図5は、6時間目の板書である。「お客さんのことを考えてレストランでのやりとりをしよう」を目標にして、他のグループに自分のグループのメニューを見せながら注文をたずね

合うという活動をした。導入時に「なぜおすすめの一言を入れるの？どんな気持ちで言ったら良いだろう？」と問いかけると「また来たいなって思ってもらいたい」「お客さんは何食べたらいいかわからないだろうから、優しい気持ちで言ったらいいと思う」というような、児童の思いを共有できた。このような思いで取り組もうと全体で共有した後、活動に入ったため、4つの Good ポイントを意識して、思いやりをもって活動できていた。5-2 では特に、+αの言葉が多く聞かれた。クラスの雰囲気、元気な児童が多いことが要因として考えられる。振り返りの共有や、机間指導の中で、嬉しい行動を相手にされた時の気持ちの共有ができたら良かったと思った。

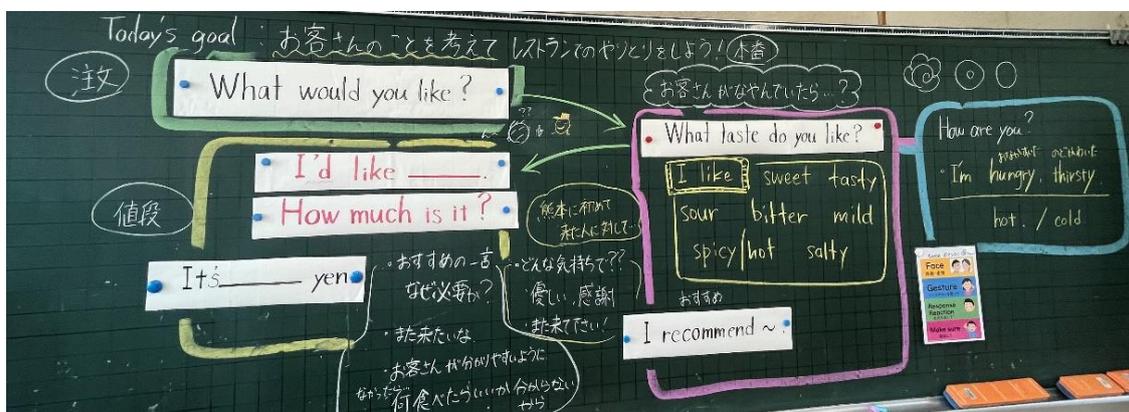


図5 6時間目の板書

また、図6のように、他のグループの人とペアを作り、レストランごっこを行った。また、やり取りを終えた後、友達から評価してもらったり、メッセージやオリジナルサインを書いてももらったりするという行為は児童にとって、嬉しい体験のようだった。本来は活動の途中で中間指導として良かったペアを紹介する予定だったが、時間の都合上、最後の時に全体で共有する形となってしまった。メニュー、おすすめの一言を完璧に準備できていないグループもあった。振り返りの時間を確保すべきだと感じた。



図6 実際のやり取りの様子

第3項 授業実践の結果及び小察

1. 単元前後のアンケート

図7にある思いやり得点とは思いやりアンケートの自由記述を除いた5項目の自己評価点の平均点のことを指す。図7は、5月と7月に実施した思いやり得点(平均)のクラス全体のばらつきを示したものである。青色が5月で、オレンジ色が7月の結果である。比較してみると、単元実施前の5月に比べ、実施後の7月の方が思いやり得点のばらつきが小さくなり、高得点寄りに固まっていることが分かる。このことから、5月から7月にかけて、思いやり行動をしている児童が増えていることが分かる。項目⑦の自由記述については、5月と比べて友達の思いやりのある行動について書く人が増え、特にKさんについての記述が多かった。これについては、外国語の単元実施直後に担任の先生の道徳の授業で「すれ違い」という題材のもと、広い心をもっていとはどんなことかを考えていた。その時に多く出てきた名前がKさんであったため、それが理由だと考えられる。「遠泳の練習について最後まで応援していた、友達に泳ぐときのアドバイスを優しく言っていたこと」という記述もみられた。これは、7月19日より臨海学校があり、その過程で項目⑤が養われていたと考えられる。外国語科の授業だけでというよりも行事や他の教科で養われた部分も多かったと思われる。筆者がクラスの様子を見てみると、帰りの準備で、水筒や教科書などを持って帰るように声かけをしたり、給食の準備では他の人の分も引いて準備していたりする児童もいたが、アンケート上ではあまりみられなかった。これは、思いやりについて具体的にイメージできていない人が多いのではないかと考えた。

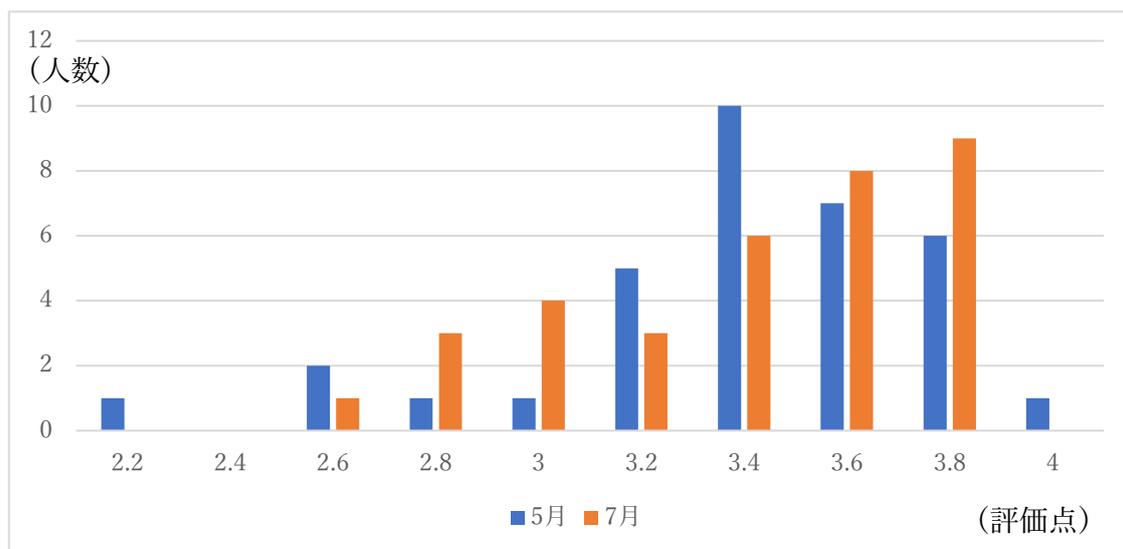


図7 5月と7月における思いやり得点(平均)のヒストグラム

2. 毎時間の授業記録(写真、子供の記述(シート)発言記録)

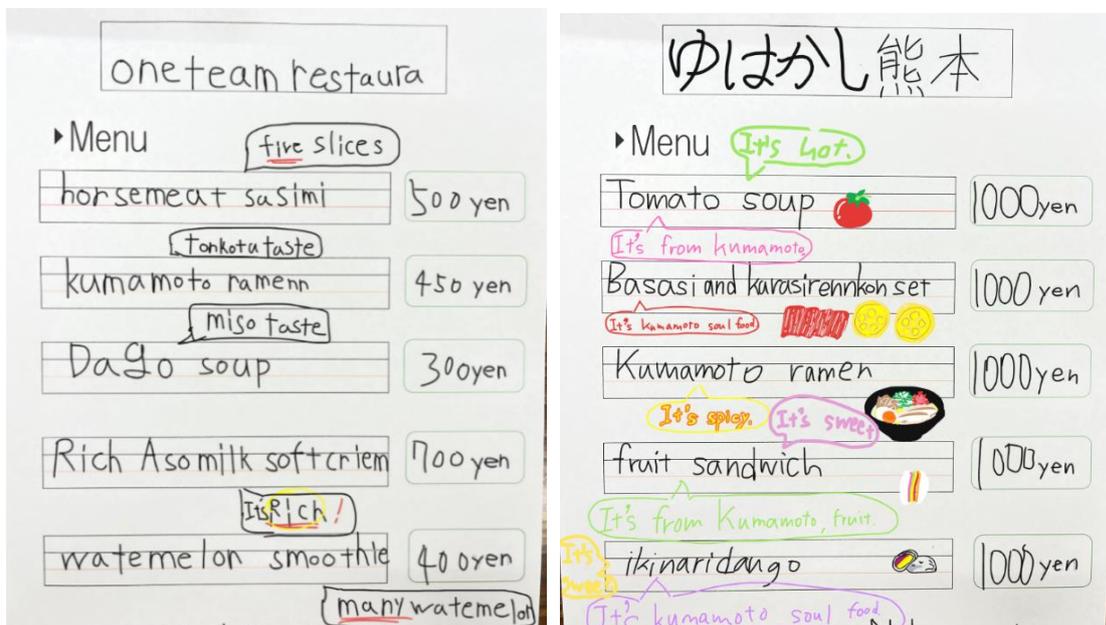


図8 児童が実際に作成したメニュー

図8は実際に児童が作成したメニュー表である。グループごとに思い思いのメニュー表を作成していた。右の図のようにイラストや写真を使って相手に分かりやすくするという工夫もみられた。グループ活動にしたため、「このメニューにはこの一言がいいよ」「このメニューを入れたい」というような話し合いが行われていた。しかし、6つのメニュー全体に共通したおすすめの一言を考えたグループや「もっと具体的なこの食材が使われている」ということを言いたいといった児童もいて、グループごとに差が生じてしまった部分があるため、見本となる例を出しておくべきだと感じた。

3. 気づき・考察

(1) 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導

図9は児童Aのワークシートである。授業の終わりに授業中での自分のやり取りを振り返っているが、教師の4つのGoodポイントを使った机間指導により、「先生にもFaceが上手ってふせんをはってもらえたので前回より相手のことを考えてやりとりできた」という振り返りがあった。これは、机間指導で付箋を教師から張ってもらうことで、自分のやり取りに自信がもてたことが分かる。

★振り返り	
1. 相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やりとりできましたか?	4つの Good ポイント ◎○△
できなかった 1 2 3 4 ⑤ できた	Face 目線・表情 ◎
・そう考える理由	Gesture ジェスチャー ◎
よくにも前回はくらべてできるようになったし、先生は Face が上手、てふせんは、てもらえたので前回は) お客さんのことを考えられた。	Response・Reaction 反応して(うなずく等) ◎
ふい レストランのメニューができたと思いきり。	Make sure 確認して ◎

図9 児童Aのワークシート

(2)教師による目的・場面・状況の設定

図10は単元の導入時の板書である。本実践では、レストランで心温まる体験したことがあるのかを児童に聞き、水はいりますか?といった思いやりのあるサービスが行われていることを共有した後、今回の単元の目的を「お客さんに喜んでもらいたい」「熊本が良いところって思ってもらいたい」という児童の気持ちを共有し、場面をレストラン、状況は熊本に初めて来たお客さんにレストランで接客をすることと設定して実践を行った。ただ食べ物や飲み物を使ってメニューを考えさせるのではなく、熊本に初めて来る人にはどのようなメニューにしたらよいかを考えさせたことで、導入時に児童たちが意欲的にメニューを考えていた。

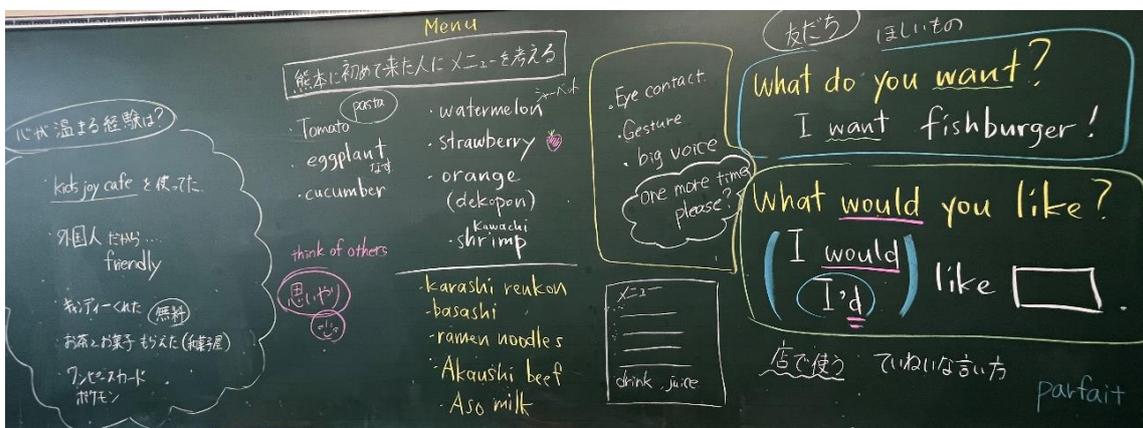


図10 単元導入時の板書

(3) 児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫

図 11、12 は児童 B の 2 時間目、3 時間目のワークシートである。児童 B は、2 時間目の振り返りでは、アイコンタクトができていないと自己評価をしていたが、3 時間目での振り返りでは、目線・表情という前回で意識できなかったことを意識して取り組むことができたとしている。そのため、相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やり取りできたかについての項目が 2 から 4 へと変化している。そして、そう考える理由でも 4 つの Good ポイントを根拠として、自分のやり取りを振り返っていることが分かる。

★振り返り		・4つの Good!ポイント ◎○△	
・料理を注文するときや受ける時に相手の気持ちや立場を考えて やりとりできましたか? 1 ② 3 4 5		Face 目線・表情	△
・そう考える理由 なぜなら、しゃべるのに集中しすぎあまりアイコンタクトができてきたので、これからは、しっかりしゃべる練習をして、アイコンタクトをとりたいです。		Gesture ジェスチャー	◎
		Response・Reaction 反応	○
		Make sure 聞き返す	△

図 11 2 時間目のワークシート(児童 B)



★振り返り		4つの Good ポイント◎○△	
1. 相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やりとり できましたか? できなかった 1 2 3 ④ 5 できた		Face 目線・表情	○
・そう考える理由 なぜなら、前回とくらべると、目線・表情などがしっかりできて、おたふも言えたから。		Gesture ジェスチャー	◎
		Response Reaction 反応して	○
		Make sure 確認して	○

図 12 3 時間目のワークシート(児童 B)

(4) ロールプレイングの効果

本実践ではロールプレイングも 1 つの手段として活用したが、レストランごっこを通して、役割になりきってやり取りをしたことで、自然と「お水はいりますか？」や「OK!OK!、Thank you!」といった発言、メニューを見せながらやり取りをする姿がみられた。普段のやり取りとは少し異なるため、英語が苦手な児童も意欲的に活動に取り組む児童がみられた。ロールプレイングという役になりきって行うという活動が児童たちにとって、自然と思いやりの行動を促すことができる内容であったと考えられる。

4. 実践1全体を通しての成果・課題

単元全体の振り返りとして、今までの授業では「～の仕方が分かった」という振り返りが多かったのだが、今回は、4 つの Good ポイントに沿った「表情を意識した」「相手のことを考えた」という記述がみられた。これは、目的、場面、状況を教師が示すことができたため、目標に向かって児童たちも取り組むことができたのではないかと考えられる。

一方で、全体で児童たちの行動について価値づけることを十分に行うことができず、机間指導だけでは全員のやり取りを把握できなかった。また、振り返りに英語の表現自体を使えなかった、難しかったという記述があり、英語表現に慣れ親しめるような手立てが不十分だったこと、メニューを考える時間が長くなり、英語を話す時間に使えなかったこと、アンケートの自己評価が低かった児童に注目して取り組むことができなかったことなどが挙げられる。そのため実践2に向けて、毎時間の授業の導入時に全体で振り返りの視点を共有し、前回良かったペアを紹介する時間を確保すること、タブレットでペアでの様子を録画し、やり取りを教師や児童が見直すことができるようにすることを意識していきたい。

第2節 実践2（実践1をより発展させた実践）

第1項 授業の構想

1. 目的

実践1を受けて、課題として挙げられた①全体で思いやりの行動を価値づける場が少なかったこと、②英語表現に慣れ親しむ場が少なかったこと、この2つを意識して、より思いやりを育めるような活動にしていくことが目的である。

①については、授業導入時に前回の振り返りの共有を行うこと、②については、ロイロノートでやり取りの録画をさせることで、児童たちがいつでも英語表現を見直すことができ

るようにした。実践1の反省を生かし、思いやりの育成を目指した授業実践を行う。対象について、実践1は「熊本に初めて来た人」という対象に向かって学習したが、それだと必然性のある目的であるのか疑問に思った。対象となる相手と実際にやり取りをして、フィードバックをもらうことも大切であると感じたため、実践2については、「外国語活動を始めたばかりの3年生へ自分の友達の紹介をする」という目標を設定した。こうすることで実践1の時より、児童は具体的に相手のことを想像し、相手意識や目的意識をもって取り組むことができるのではないかと考えた。また、実践1では、最後の6時間目に、結局いつもと同じペアでやり取りをしている児童をみかけた。そこで、本実践ではグループ編成も工夫し、児童がクラス内の友達に目を向け、いつもと違う友達と関わられるような工夫を行っていく。自分たちより年齢が下の相手に対し、児童がどのように内容を工夫することができるのか、思いやりの心をもって取り組むことができるのかをみていく。

2. 実施学年・実践内容等

(1)実施学年と時期

- ①実施学年：K市内K小学校 第5学年3クラス
- ②実施時期：2023年10月2日～2023年月11日2日

(2)実践計画

- ①単元：Unit5「He can run fast. She can do *kendama*.」(光村図書 Here We Go! 5 P 62-69) 新出表現：Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. He (She) can ~. / can't ~.

③題材について

今回の題材では、英語のできることを、できないことの言い方を取り扱うが、自分のことはもちろん、HeやSheを使って周りの人のことを紹介することが目標である。自分のことを伝えるだけでなく、自分以外のことを紹介するところが、他者理解に生かせるような内容になっている。今回は、「3年生に友達のことを紹介しよう」ということを単元の目標とした。外国語活動を始めたばかりの3年生に対して、どのような内容を紹介すると友達の良さが伝わるのか、どのような表現を工夫すると3年生に分かりやすいのかと思いを膨らませることが考えられる。また、Unit9「My hero is my brother.」につながる単元であるため、自分のことだけでなく、互いに相手のできることを、できないことや性格を伝え合う活動も取り入れる。こうすることで、よりお互いのことを分かり合えるような単元にした。このように、相手のことを知る、という他者理解の観点から、思いやりの心を育てるこ

とに適した題材であるといえる。

④指導に当たっての留意点

本題材は、今までは I や You といった 1 人称だけでやり取りをしていたが、He や She という 3 人称が新しく入ってくる単元である。そのため、誰のことを紹介するとき主語がどのように変化するのかについて気付くことができるような指導を行う。本単元の導入で、まずは ALT の先生の紹介、そして担任の先生に関するクイズを出し、その後 3 年生に向けて自分の友達を紹介するという目標へ向かわせるようにすることで、主語の変化に気付くことができるようにする。1 時間目終了時に、児童が言いたいできること、できないことを書いてもらい、2 時間目のワークシートに 1 時間目で、児童から多く上がっていた英語表現を入れておく。5 時間目に ALT との Small Talk の中で 3 年生にどのような紹介の仕方ができるのかをモデルとして提示する。自分の良いところが分からないという児童がいることも想定されたため、お互いの良いところを伝え合う活動を加える。

表 4 単元計画(全 9 時間)

時	学習内容	思いやりの視点
1	can, can't の使い方を大まかに理解する。 単元末に友達の紹介を 3 年生にすることを伝え、見通しをもつ。教 62-63 ALT や担任の先生のクイズを提示し、モデルを提示する。	友達がどのようなことを紹介されたら嬉しいのかを考える。
2	できるかどうかをたずねる。 教 64 Let's watch を聞いて、That's right. Great, Me, too.等の反応の仕方を学ぶ。 Can you ~ ? Yes, I can. / No, I can't. 宿題：友達(男女)8 人の素敵ところを考えてくる。	4 つ Good ポイントの机間指導を行う。
3	友達のすてきなところを伝える。 You are ~. You can ~.	4 つの Good ポイントの机間指導を行う。友達の良いところを考える。

4	<p>グループを決める。 インタビューし合う。4人×9グループ 教 64-65</p> <p>What ~ do you like? Can you ~? / Yes, I can, No, I can't. I can ~. I can't ~</p>	<p>担任の先生に情報を確認して、グループを編成する。</p>
5	<p>4人全員の情報を集める。(グループ) 紹介のモデルを教師が提示する。 グループで発表内容を決める。 He(She) can ~. He(She) can't ~. He (She) likes ~.</p>	<p>グループ、個人の振り返りを行う。 3年生に分かりやすく伝えるために、どのように工夫するのか考える。</p>
6	<p>友達の紹介をする台本作成と練習をする。(グループ) 他のグループの例を提示し、色を付けたり、分かりやすく紹介できるようにして、撮影する。</p>	<p>4つの Good ポイントの机間指導を行う。 グループ、個人の振り返りを行う。</p>
7	<p>他のグループの発表を聞き、自分たちの発表内容を考える。 グループ内のインタビューと、他のグループの評価をする。</p>	<p>他のグループの動画を見て、3年生に伝わりやすいか、友達の良さが伝わっているかという2つの視点で評価する。 グループ、個人の振り返りを行う。</p>
8	<p>3年生に友達の紹介をする。(本番) グループのペアを変えて計3回発表を行う。3年生からメッセージをもらう。</p>	<p>やり取りをしている中で、相手によって変更した方がいいと思ったら、どんどん変えていくようにする。</p>
9	<p>交流を振り返り、発表の内容を考える。 3年生からの感想を見て、グループ内で振り返りを行い、発表の内容を再度工夫する。</p>	<p>実際に話した3年生の状況に応じて、発表を工夫する。</p>

3. 実践上の工夫点

(1)対象の広がり

本実践では、目的を「3年生に友達の紹介をしよう」とした。通常であれば、クラス内で完結することの多いが、今回は3年生という対象をはっきりさせ、実際に本人たちに向かって紹介し、フィードバックがもらえるようにした。こうすることで、より必然性のある目的、場面、状況を設定することができると思った。3年生は外国語活動が始まる時期であり、5年生が今まで学んだ英語を使いながら3年生に分かりやすく友達を紹介することを想定した。対象をクラス外に向けることで、相手のことを具体的に想像しやすくするとともに、内容もどのような内容にするべきか考えやすくすることができると思った。

(2)グループ編成について

グループ編成において工夫したことは主に2つある。1つ目は、児童たちの気持ちを重視したことである。図13は、実際にグループ分けを行った板書のイメージ図である。まず、児童たちに I'm excited!(わくわくしている)、I'm excited & nervous(わくわくしているけど、少し不安だ)、I'm

I'm excited!	I'm excited! & nervous.	I'm nervous.
aさん		jさん
bさん	gさん	kさん
cさん	hさん	lさん
dさん	iさん	⋮
eさん	⋮	
⋮		

図13 グループ編成の板書のイメージ図

nervous(とても不安だ)の3つを提示し、英語が話せる、話せないではなく、今回のプロジェクトに対して、どのような気持ちなのかを選ばせた。その後、筆者が3つの立場の児童が混ざるように4人1組のA~Iの計9グループを編成した。(図14)こうすることで、グループ間で気持ちの差を小さくすることができ、英語に対して不安な気持ちをもっている児童同士で助け合いができるような雰囲気を作ることができると思った。

2つ目は、担当クラスの5-1については、仲の良い人とあえてばらばらにしてグループ編成をしたことである。担任の先生と話していく中で、クラス内でのグループ化を懸念されていたことを知り、いつも休み時間に関わっている仲の良い人たちをあえてばらばらにしてグループ活動ができるように、意図的にグループの編成を行った。他の2クラスについても担任の先生と相談し、誰とならこの児童は話しやすいといった、児童の実態に沿ってグループ編成を行った。

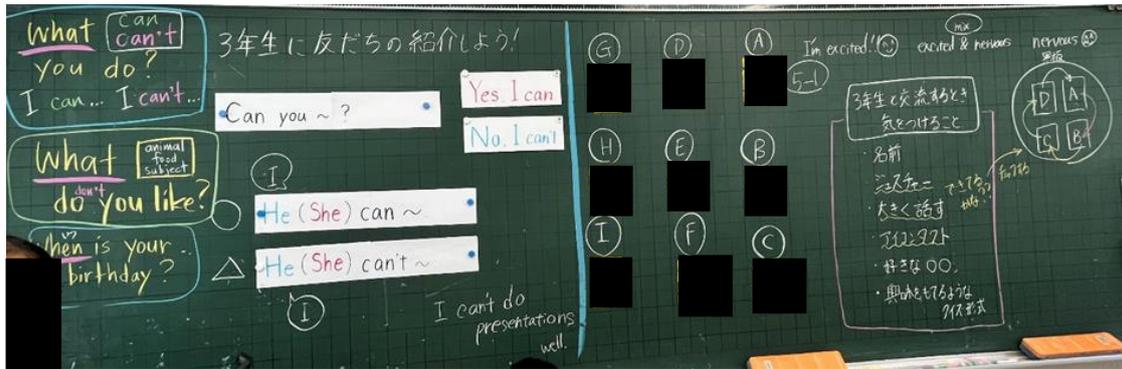


図 14 グループ編成を行った際の板書

(3)ワークシートの工夫

図 15 は、児童たちにロイロで授業終わりに配布したワークシートである。実践 1 の項目に加えて、「2.今日の学習を通して、難しかったこと、頑張ったこと、考えたこと、この先に生かしたいこと」を加えた。これは、学習の難易度として、児童がどのように努力しているのか、どこにつまずいているのかを筆者が把握するために設けた。

2. 今日の学習を通して、難しかったこと、頑張ったこと、考えたこと、この先に生かしたいこと

図 15 実践 2 で新たに付け足した項目

図 16 は、3 年生との交流が終わった後に 3 年生配った感想シートである。項目 1 では、3 年生に伝わりやすい内容であったかという難易度を図るために 3 段階で評価する欄を設けた。具体的に分からなかったところも書くようにし、例えば早口で、なんという意味か分からなかったのであれば、5 年生にフィードバックしたときに、ゆっくり話そう、というように生かせると考えたからである。項目 2 に関しては、5 年生の自信につなげてほしいという思いで、「すごかった、自分も頑張りたい」といった感想が予想されるため、感想の欄を設けた。

5 年生の発表を聞いて

3-__ 名前 _____

1. 5 年生の英語での発表を聞いて、話している内容は分かりましたか？

分かった ◎ ○ △ あまり分からなかった

ここは分かった、聞き取れた、ここは難しかった、と具体的に書ける人は書いてください。

理由： _____

2. 5 年生の発表を聞いて、どんなことを思いましたか？ 感想を書いてください。

図 16 3 年生の感想シート

班

友達の良さが伝わっているか

◎ ○ △

理由: どんなところが良かったか。どんなところを改善するともっと伝わりやすくなるか

班

3 年生に分かりやすく伝えることができているか

◎ ○ △

理由:

図 17 7 時間目に使用したワークシート

図 17 は、7 時間目に他の班の発表を見るために、使用した 2 つのワークシートである。「友達の良さが伝わっているか」「3 年生に分かりやすく伝えることができているか」の 2 つの視点を 3 年生の交流をするための準備として、常に児童と共有してきた。友達の良さについては、どのような文章が友達の良さを伝えることができるのかという内容面で工夫ができ、3 年生に分かりやすく伝えることができるのかについては、ジェスチャーや発表の仕方といった表現面を工夫することが考えられる。他のグループに理由付きで、お互いにアドバイスをし合うという時間を設けた。こうすることで、多面的に自分たちの発表を振り返

ることができると考えた。

4. 授業の評価方法

(1) 思いやりについてのアンケート

実践1と同様のアンケートを用いる。なお、項目⑥の質問については、実践1での授業や児童の実態を踏まえ、実践2でみとっていきたいと考えたため、新たに付け足した質問項目である。アンケートの項目①～⑥に関しては、4:よくしている、3:まあまあしている、2:ほとんどしていない、1:していない、の4段階で評価した。項目⑦については自由記述とし、何もない場合は特になしと書かせ、書かれた数の変化、分類を行う。

その他、実践1と同様、授業中の発言記録などにも注目して授業を振り返ることとした。

表5 思いやりに関するアンケート項目(実践2)

- ① 友達がこまっている時に手伝っていますか。
- ② 友達が勉強や分からないことで、なやんでいたら教えていますか。
- ③ 1人での友達を見かけたら声をかけていますか。
- ④ 友達が落ち込んでいたらなぐさめたり、はげましたりしていますか。
- ⑤ 友達が頑張(がんば)っている時に応えんしていますか。
- ⑥ クラス内でだれとでも話ができていますか。
- ⑦ 「最近」、あなたが見かけた、『思いやりがあるな』と思った、友達の行動を教えてください。

(2) 児童の授業での様子や成果物

授業中の発言記録や、児童の様子、実際に作った成果物などにも注目して授業を振り返ることとした。

第2項 授業の実際

第1時「can, can'tの使い方を大まかに理解しよう！」(10月2日)

can, can't や He, She について子どもたちになんとか理解してもらいたかったため、ALTのモデル「I can play chess, but I can't play shogi.」を提示し、その後、教師が主語を変えて紹介した。「He can play chess, but He can't play shogi.」主語について理解した後、再

度、スクリーンにクイズ形式で今度は、担任の先生に関するクイズを出した。

3年生に友達を紹介するという目標を伝えると「ええ」という反応が返ってきた。「このグループでするのですか？誰を紹介するのですか？」といった最後の形が理解できていない児童が多かったため、早い段階で、明確なモデルの提示が必要であると感じた。クラス外で発表するということに対して不安に思っている児童の姿もみられた。振り返りの時間に、自分のできること、できないことを書かせたが、思いつかない児童がいた。自分の得意とは言わずとも、例えばこんなことがあるよといった教師の声かけが必要だと感じた。3年生が興味をもてるように児童たちなりに、「できることよりも好きなことの方が良い、内容を絞ったほうが良い」といった考えが出ていたため、それらを使って最終的に3年生にジェスチャーをつけて伝える活動にできると良いと思った。

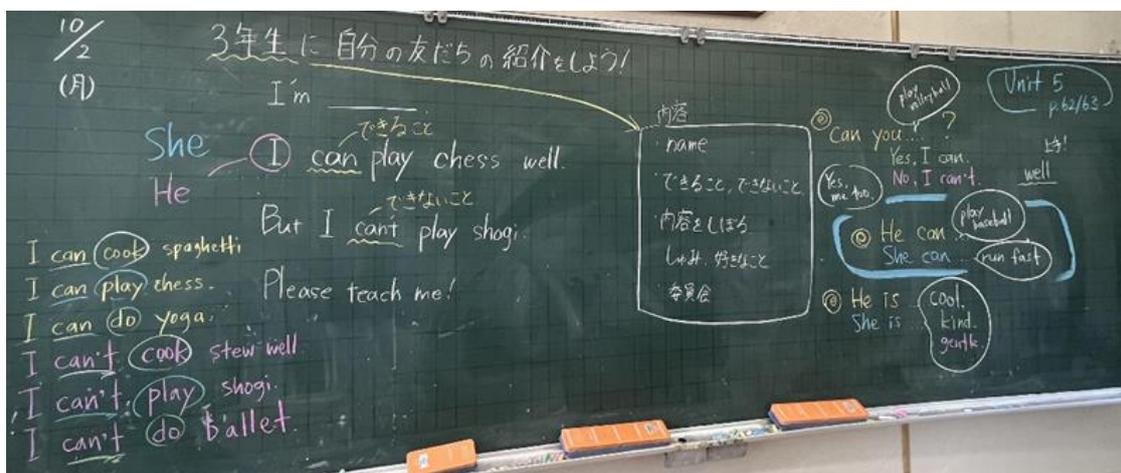


図 18 1 時間目の板書

第2時「できるかどうかをたずね合おう！」(10月5日)

前時の表現の復習をしながら、1時間目に書いた振り返りを見返してみると、自分のできること、できないこと分からないと困っている人がいたことを共有した。そして「どのようにしたらいいだろう」と問いかけたところ、「友達に教えてもらえばいいんじゃない」という児童の声があがった。図19は2時間目に大まかな単元の流れを児童と作っていったものである。まずは自分のことを言えるようになり、その後、友達にインタビューしたり、自分のできないことを友達に教えてもらったりする時間もとろうと単元全体の流れを確認した。

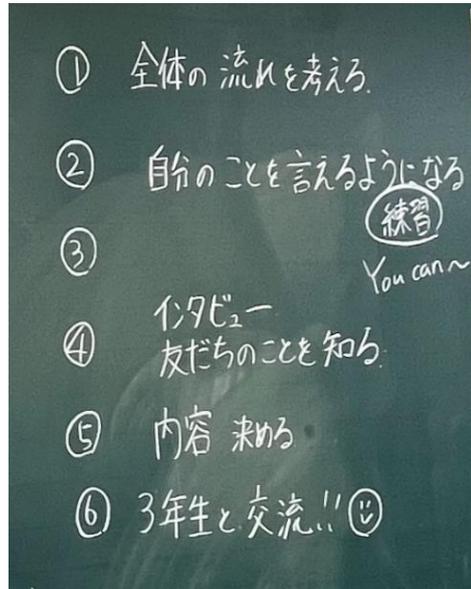


図19 単元全体の流れの板書

ALT がいない時だったため、Kさんがやり取りの例を示す時に手伝ってくれた。「My name is ~.」と3年生に紹介することを想定して練習している児童もいた。英語が苦手なHさんが「先生、これなんて言うの?」と意欲的に取り組んでいた。SさんがHさんとやり取りをしている際、swimの意味が伝わっていなかったときに、筆者が「別の方法で伝えてみたら?」と声かけをしたところジェスチャーを使って伝えていた。英語だけで伝える

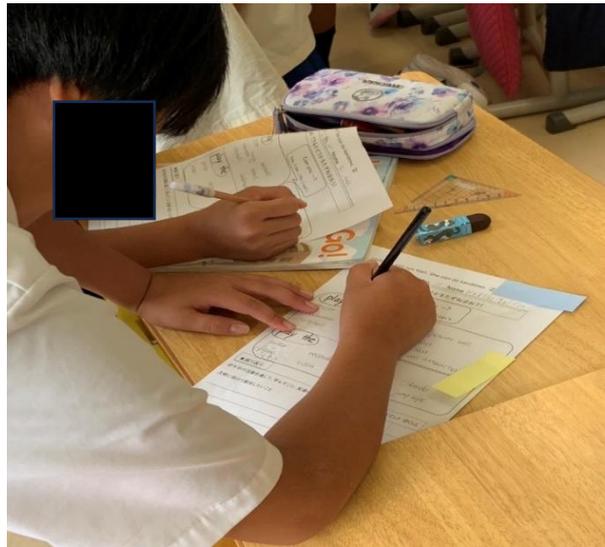


図20 児童のやり取りの様子

のではなく、ジェスチャーという別の方法を使って言いたいことを伝えていた人がいたことを授業の最後に全体で共有することができた。Mさんが draw pictures well を言いたいが、何度か活動の際に聞きに来たため、ロイロノートで1つ言えたことを録音させるといつでも見返すことができると感じた。

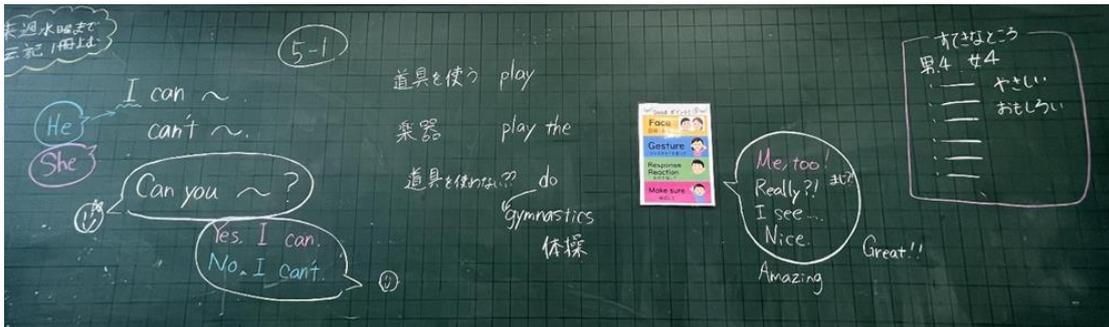


図 21 2 時間目の板書

「先生、付箋下さい!、見てて!」といった、4つのポイントを意識してするから見てて、という児童の姿があった。(図 20) 1対1のやり取りだが、一か所にまとまってやり取りができたかわからないところがあった。児童たちがどのくらいの人とやり取りできたかをみるためにワークシートにカウントさせる欄を設け、児童たちにどれだけの人とやり取りできたかをカウントさせた。

第3時「友だちのすてきなところを英語で伝えよう!」(10月13日)

図 22 は 3 時間目の板書である。単元計画を見せながら、友達に自分のできることを教えてもらうことを目標として活動を行った。「You are ~. You can ~」を使って、相手の良いところを伝えた後、Because を使って、理由は日本語で伝え、終わったら本人からサインをもらうという活動を行った。お互いに褒め合う時間だったため、雰囲気は良かったと思う。しかし、たくさん事前にも書いていたにも関わらず、異性を意識して伝えることができなかった児童がいた。

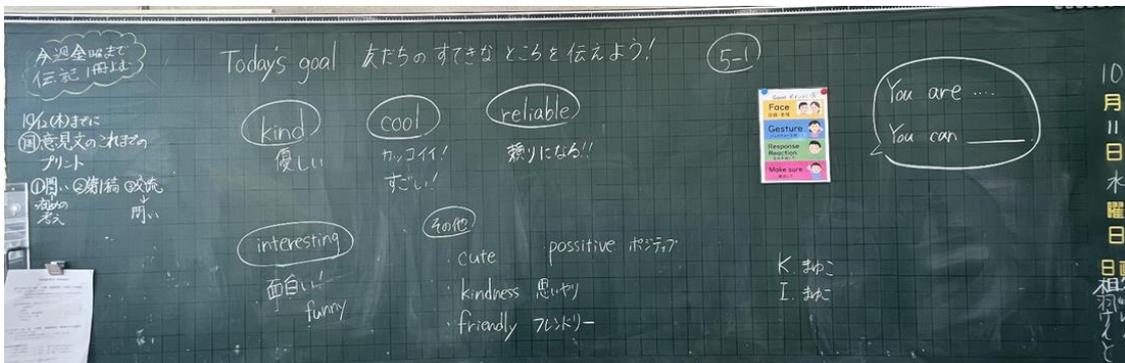


図 22 3 時間目の板書

5-2では「自分は funny だと思っていたけど、意外と友達からみたら cool だったことに驚いた」と感想を言っていた児童がいた。この児童は他者からみえる自分の意外な性格に気付くことができたと考えられる。1人での児童への対応があまりできていなかった。すてきなところが分からない、異性のすてきなところはないと言っていた児童たちが他クラスでは多かった。苦手意識がある児童、自分から動かない児童に対して、教師がどのように声をかけるか、周りがどのようにアプローチしてくかが大切だと思った。本来は、ロイロノートでやり取りを録音する予定であったが、指示しなかった。理由は、英語が苦手な児童にとって、いきなり自分の声を録音するのはハードルが高いと考えたためである。次の活動で、4つの Good ポイントを本当に意識できているかを自分で確認する方法はあるか考えさせ、児童たちから必要性を見いだす方が良いと考えた。

第5時「3年生の交流に向けて内容を考え、グループで練習しよう！①」（10月20日）

図23は、5時間目の導入でALTと提示したモデルである。ロイロノートで台本を作成し、文のみで発表し、児童に「文章だけだったけどどうだった？」と聞いた。すると、「分かりにくい」「なんて言ってるか伝わらないんじゃない」という声が聞こえた。「ならどのようにしたらいい？」と聞くと、「イラストつけたり、ジェスチャーしたり？」と筆者の例をもとに、児童が発表の仕方を工夫できるようにした。どのような内容が聞き取れたかを全体で共有し、「What can you do?」「I can ～。」の文を使ってグループ内でインタビューを行った。5-3のグループによっては、4人が2ペアに分かれてしまい、できることが分からない、恥ずかしいから動画をとりにくいと、学習に前向きでない児童もいた。

Hello, My name is ～, ～, ～, and ～. We want to introduce my friends. First, this is my friend, Jason. He can play chess, but he can't play shogi. He is very kind. Because he always gives me good advice. He can help other friends.

図23 ALTのモデル

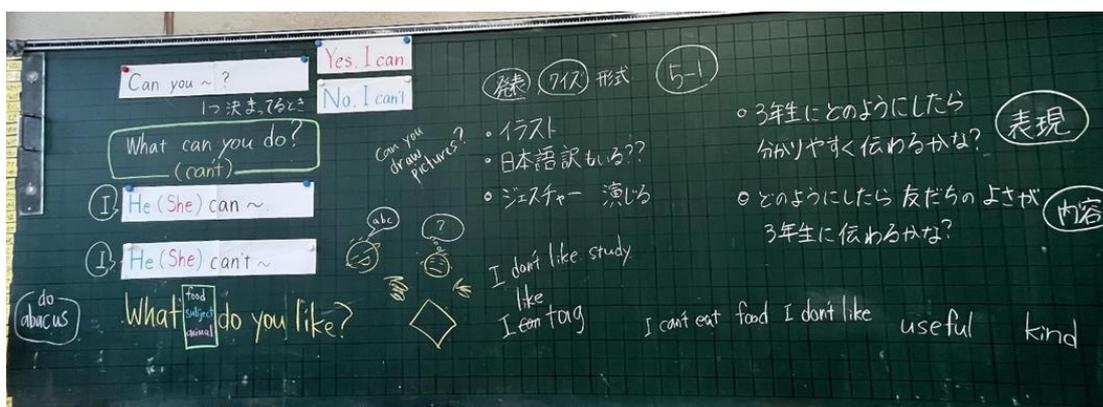
図 24 は実際に児童が作成した台本である。What can you do? や I can ~. というようにインタビューのやり取りを使って紹介しようとしていた。本番は、写真やイラストを使うともっと伝わりやすい、カタカナで書いてあるため、英語で学ぶことが難しいと思ったため、個別で声かけを行った。

台本
 二人でハロー
 ヒーキャンプレイさっかーアンドプレイザドラム
 イェスアイキャン
 ヒーキャントウスタディー
 ノーアイキャントウ
 シーキャンプレイザピアノアンドダンス
 イェスアイキャン
 She can't teacher room
 No I can't
 バイバイ

図 24 児童が実際に作成した台本

第 6 時「3 年生の交流に向けて内容を考え、グループで練習しよう！②」(10 月 25 日)

図 25 は 6 時間目の板書である。5-1 では、友達の紹介の仕方を提示する際、気になっているクラスの一人の例を出すことで、児童たちの意欲を高めることができた。前回のインタビューの様子を共有することで、グループ内でインタビューをするときに 4 つの Good ポイントを具体的に共有することができ、その後の活動でもそれぞれが意識してやり取りができていた。ALT は発表形式、クラスの児童の紹介はクイズでやってみた。児童たちはモデルからこういうような発表にしようとして具体的な内容を考えていた。インタビューに時間をかけすぎて、台本を考えることができていないグループがいた。5-2 の時は、最初の文



章だけのスライドを見て、3 年生に伝わりやすいだろうか? と聞くと、もっとこうしたほうが良いという考えがすぐ出てきたが、5-1 では、最初そのまま伝わりやすいという反応だった。クラスによって同じことを聞いても反応が異なった。振り返りの時間が確保できていなかったため、12 分前くらいから声かけをして、振り返りの時間を確保する必要があると思った。

第8時「3年生に友達の紹介をしよう！」(10月30日)

3年生と交流するときは視聴覚室を利用した。図26は交流するときの移動方法である。ABC、DEF、GHIの中でそれぞれ移動する形にした。3年生の班も全部で9グループあるため、5年生が先に教室で待ち、3年生が来たら、5年生が自分のグループに呼ぶようにした。交流が終わって次の場所へ移動する際は、5年生が移動し、3年生はそのまま待つ状態にした。5-1は3-1と、5-2は3-3、5-3は3-2と交流した。

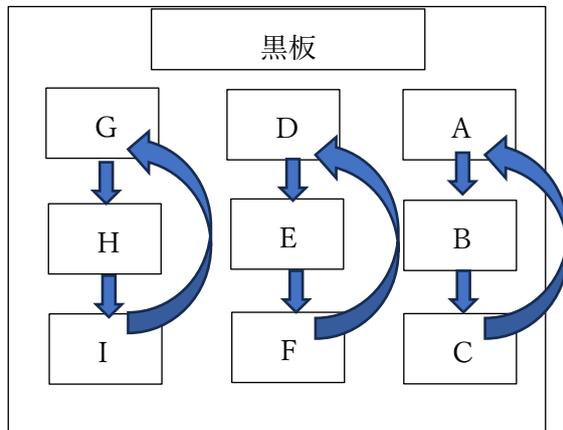


図26 グループ移動のイメージ図



図27 実際の交流の様子

図27は3年生と実際の交流している様子である。4人で立って発表するグループや、ペアごとにそれぞれを紹介するといったグループごとに様々な形式で発表していた。3年生に英語を教えている児童もいた。班の移動も正確に伝わっていたため、スムーズに交流をすることができた。3年生も5年生も初めは緊張していたが、1回目、2回目と回数を重ねるごとに楽しく活動していた。余った時間を3年生との交流に使っているグループもあ

り、英語でインタビューされたから英語で答えたということもあった。グループワークで1, 2回目は上手いかなかったところも最後は役割分担してできていた。3年生が思ったより英語を話していたため、3年生の実態把握をするべきであったこと、発表が早く終わってしまったときの対応をもう少し準備してあげるべきだったことが反省である。

図28は、8時間目の板書である。3年生と交流が終わった後に3年生、5年生それぞれに感想を聞いた。以下は、授業の最後に出た3年生からの感想である。この他にも感想をたくさん伝えたいという3年生の姿が多くあった。

英語で話せて、頑張って話していてすごいと思った。
間違っても、途中で止まってもちゃんと言おうとしていてすごいと思った。

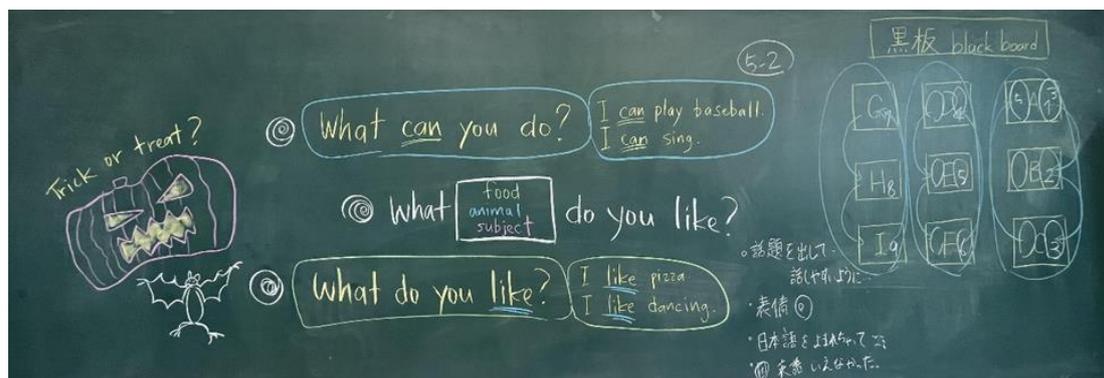


図28 8時間目の板書

一方で5年生からは、3年生の反応もよかったため、頷いてくれたり、反応してくれたりにして話しやすかったという声があがった。

3年生を返した後、5年生で反省を行ったが、「表情は意識できた」「話題を出して話しやすい雰囲気を作った」「日本語を読まれちゃった」といった声が聞かれた。日本語訳を英文に全部つけなくてはならないと思っていたが、3年生の反応を見て、必要な部分だけ日本語にして伝えたという交流をしていく中で発表を工夫している児童もいた。ゆっくり話そう、日本語訳を減らそう、といったように実際の相手とやり取りしたからこそ得られる学びがあったと感じる。5-3では1つのグループがタブレットを使って今まで習った英語を使って質問していたため、それを取り上げ、「早く終わったグループは英語を使って質問してみよう！」と他のグループに共有することができた。お休みだった児童に対して、1文でもいいから伝えてみようと呼びかけを行ったが、支援が必要だと思った。

第9時「3年生との交流を振り返ろう！」(11月2日)

まずは、グループごとに3年生との交流について、グループ内で振り返り、全体で共有した。表6は、全体で共有した反省である。その後、3年生に書いてもらった感想をもとに、どのようなところを改善すると、より3年生に伝えることができたのかを考えた。イラストを使ってほしかったと書いてあった、分かりやすかったと書いてあったけど◎じゃなくて○だったから、どのように工夫すると◎になるのだろうかと考えを深めることができた。英文の後に日本語訳をしているグループが多かったため、外国語学習として、3年生が分からないところのみを日本語にしたり、できるだけジェスチャーやイラストを使ったりして表現してみようという声かけをした。グループごとにもう一度3年生と交流するならば、どのような発表にするのかを考えさせた。

表6 全体で共有した反省

<p>3年生が楽しくなさそうだった。話を聞いてない。</p> <p>話が短かった。</p> <p>声が小さかった。早口だった。英語が止まってしまった。日本語を使ってしまった。</p> <p>アイコンタクトが ジェスチャーをあまりしていなかった。</p> <p>ふざけすぎた。盛り上げようとして…</p> <p>質問タイムが結構取れて深まった。</p> <p>笑顔でできた。確認できた。</p> <p>3年生が楽しく聞ける工夫をした。(雰囲気)</p>

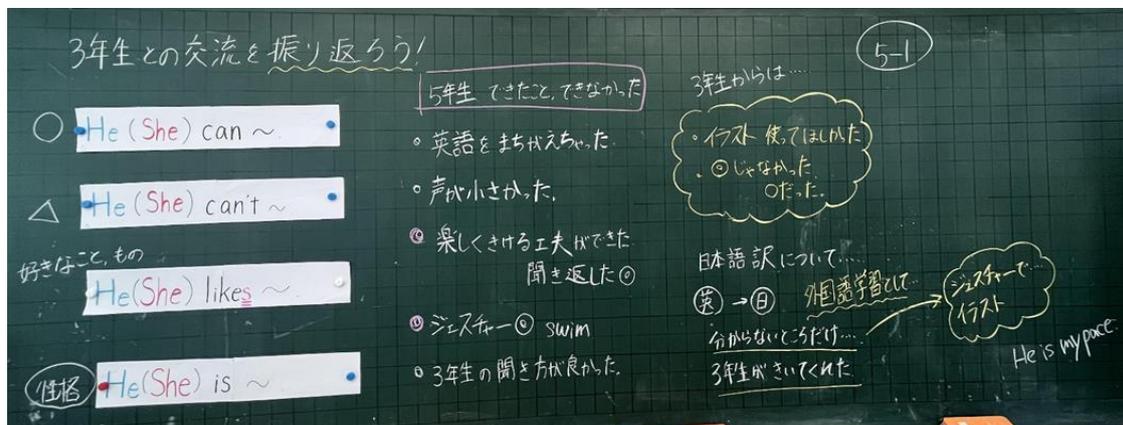


図29 9時間目の板書

4つの Good ポイントを見ながら、確認、目線、表情、ジェスチャー、の観点から振り返りをしていった。3年生からのメッセージを読んで、喜んでいて児童やもっと読みたいという声を聞くことができた。このことから3年生との交流が、外国語学習の意欲向上につながったと感じた。しかし、もう少しグループごとで見直す時間や、練習の時間もしくは、3年生と1度関わって、その後もう一度作り直すという試行錯誤の時間があったとしても良かったと思った。他の人が説明しているとき暇になっていたグループがいた一方で、誰かが誰かの説明をするときに役割分担をして、日本語訳をしているグループもいた。3年生によって発表しやすい班と発表しにくい班がいたようだ。単元の最初に3年生にどう思ってもらいたい?と聞いた時の「すごい、5年生と仲良くなりたい!」という目標をもう一度提示し、達成できたかを聞くことができた。単元の目標に立ち返って振り返りができた。本来、実践2は、6時間計画だった授業であったが、計画的に行うことができなかった。理由として、3年生の交流に向けての取り組みを始めることが遅かったこと、グループで進度の差が生じてしまったことが挙げられる。もう少し、動画を撮影するときは時間を区切ったり、時間内に終わらせられるように声かけをしたりする必要があった。

第3項 授業実践の結果及び小察

1. 単元前後のアンケート

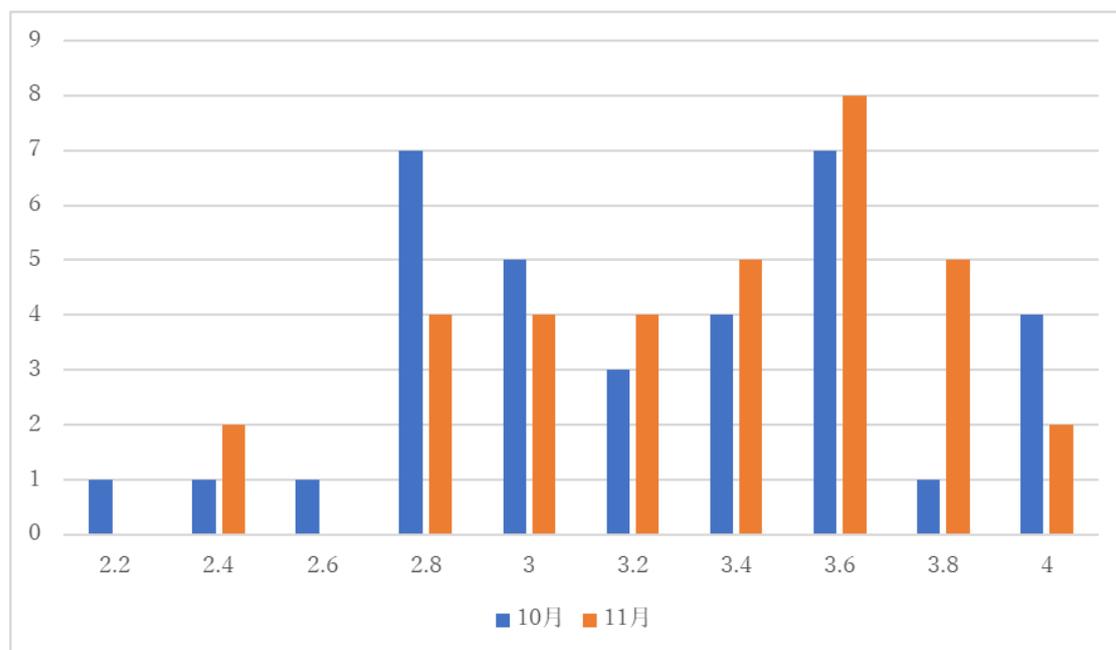


図30 10月と11月における思いやり得点(平均)のヒストグラム

図 30 は、図 7 と同様、10 月、11 月のそれぞれの児童の思いやり得点の平均点を表したグラフである。10 月が青色で、11 月がオレンジ色であるが、平均値は 3.24 から 3.34、中央値も 3.2 から 3.4 と平均・中央値ともに上昇し、標準偏差(全体のばらつき)も小さくまとまった。このことから 10 月よりも 11 月の方がクラス全体として、思いやり行動が増加したといえる。

実践 2 では、項目⑥「クラス内でだれとでも話ができますか」を新たに追加し、アンケートを実施した。グループ編成などを工夫したためこの項目は 4 が増えると思っていたが、クラス全体での項目⑥の思いやり評価点が 10 月より 11 月の方が下がるという結果になった。4 点満点であり、平均がどちらも 3 点台であるため、もともと高い得点であったが、何かしらクラスの状況が影響しているのかもしれない。1 単元の授業だけでは、クラスのいつもと異なる友達と話すきっかけにはなりにくく、継続的に様々な友達と関われるような取り組みを授業の中で取り組んでいく必要があると感じた。

表 7 はアンケートで自己評価が低かった児童へのインタビューの内容である。これら 3 人のインタビューで見えてきたことは、英語が苦手な児童にとっては、クラス内でも自信をもって言えないにもかかわらず、3 年生というクラス外に発信することは少しハードルの高い内容になったかもしれないこと、英語が苦手な児童が話せるような十分な手立てを準備することができなかったということである。

表 7 自己評価が低かった児童へのインタビュー

T さん：緊張した。でも楽しかった、イラストをいじられたりしたけど…、ちょっと難しかった…、英語の発音が…
W さん：3 年生の交流は時間があつた時に自己紹介とかをして相手のことを知れたからよかった。難しかったわけではない。楽しかった。
I さん：3 年生と交流するのは少し緊張した、不安もあつた、うまく言えるかな。声やジェスチャーが小さくなった。クラス内でのやり取りの方が慣れてるから言いやすかった。やりやすかった。

2. 児童の観察より

成果としては、T さんが英語の苦手な友達と関わっているときにジェスチャーを使って説明していたことを共有し、全体での価値づけを行うことができたこと、発表の練習やイン

タビュウの様子をロイロノートで記録したことで、児童が視覚的にやり取りを見直すことができたこと、3年生との交流で時間が余った時に、今まで学習してきた内容を使いながらやり取りができる場面の設定をすることができたことが挙げられる。課題としては、時間が余った時の対応をもう少し設定する必要があったこと、3年生は発表を聞くだけの活動になってしまったため、3年生と5年生の双方向に必然性のあるやり取りができる状況を作るべきだったことが考えられる。

図 31 は、8 時間目の 3 年生との交流の様子である。このグループは、発表が終わった後、時間が余ったため、ロイロノートを使って「What ~do you like?」「When is your birthday?」「What can you do?」「What ____ do you like?」などと 3 年生に英語で質問していた。今まで習った英語を使って 3 年生にも伝わるように文字におこして提示していた。これも思いやりの行動であると感じた。



図 31 3 年生との交流の様子

3. 毎時間の授業記録(写真、児童の記述(シート)発言記録)

(1) 3年生の感想シートから

図 32 は 3 年生の感想シートである。この児童は、言い方が分からない単語もあったが、イラストや読み方がついていて分かったと記述している。3 年生の各クラスで項目 1 の発表の難易度を問う質問の集計結果は以下のようになった。

3-1 : ◎…17 人、○…16 人、△…0 人

3-2 : ◎…21 人、○…13 人、△…1 人

3-3 : ◎…23 人、○…13 人、△…0 人

この結果からは、3 年生にとって今回の 5 年生が友達の紹介をするということは、難易度はそんなに難しくなかった、もしくは、5 年生が和訳したり、分かりやすくするために工夫して

いたりしたため、◎、○がほとんどになったことが考えられる。「分かった?と聞いてくれたり、イラストやジェスチャーを使ってやりとりしてくれたから分かりやすかった」という感想もみられた。これは確認するという 4 つの Good ポイントに該当すると思う。3-1 は下にメッセージを書いてもらい、3-3 はもっとこうしてくれたら分かりやすかったというところを書いてもらった。各担任の先生と書く内容を統一してもよかったと思う。

図 32 3 年生が書いた感想シート

(2) 児童の振り返りから

図 33 は児童 M の 8 時間目の振り返りである。児童 M は、計 3 回の 3 年生と交流する中で最初は座ってやり取りをしていたが、立って発表した方が相手に伝わりやすいと判断し、交流の中で工夫を行ったことが分かる。

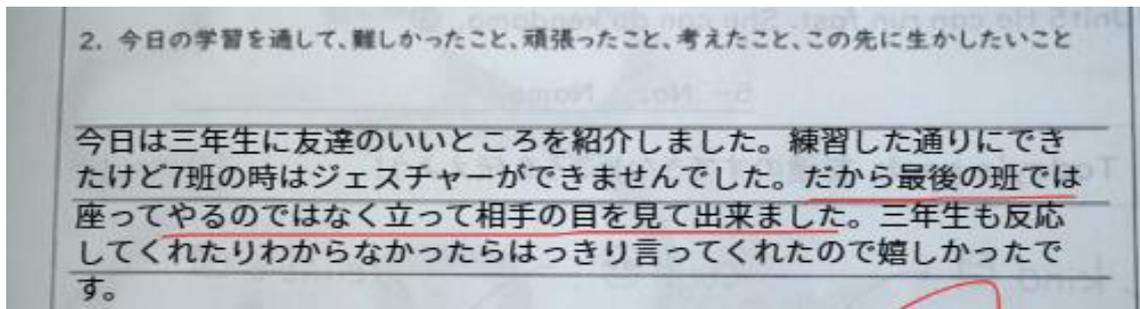


図 33 児童 M のワークシート

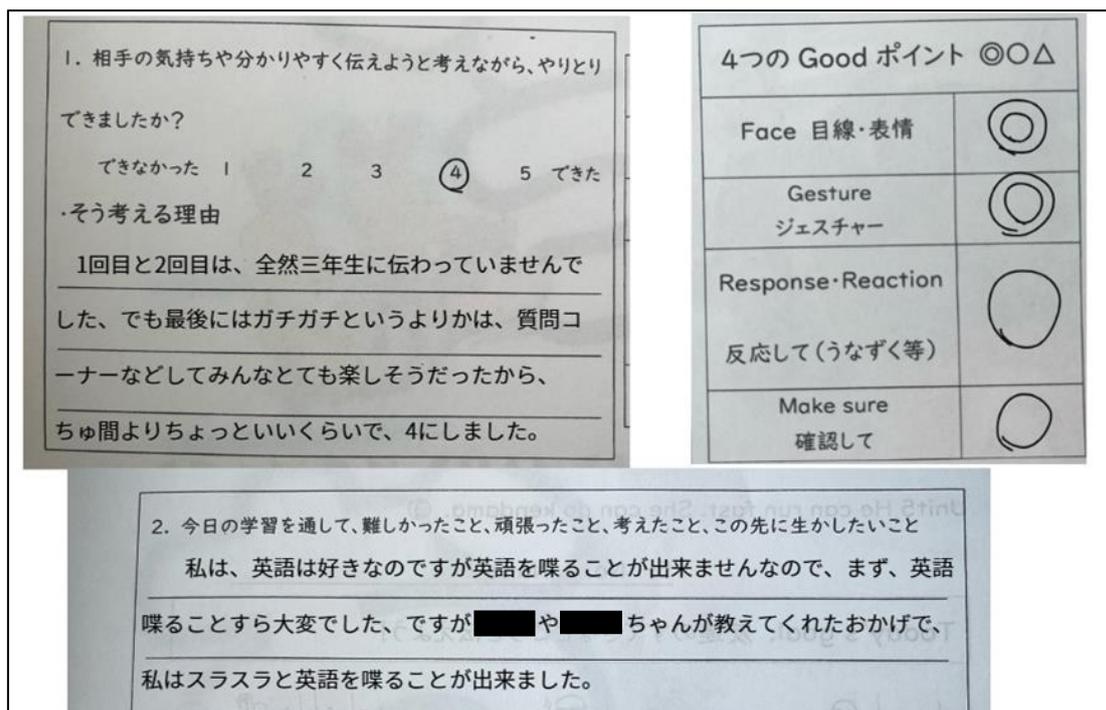


図 34 児童 N のワークシート

図 34 は児童 N のワークシートである。児童 N は英語に苦手意識があるが、グループ活動をすることで、友達に英語を教えてもらい、助け合いながら、3 年生と交流できたことが分かる。

図 35 は 9 時間目の児童 I の振り返りである。3 年生との交流を通して、相手を意識してやり取りをすることが大切だと、気付いた児童もいた。児童 I は、実際に交流した 3 年生が目の前にいると思ってジェスチャーを行ったり、ゆっくり話したりするといった相手を意識してやり取りを行い、発表内容を考えることができた。

振り返り

今日は、紹介の動画を撮りました。そこで気をつけたことは、3 年生が前にいると思ってゆっくりはきはきと喋ることです。また、ジェスチャーもしました。3 年生とやる時もゆっくりはきはきと喋りたかったなとおもいました。

図 35 児童 I の振り返り

3 年生が英語でチャレンジしたいのか、日本語訳をつけてほしいのか、と願いを聞くとより相手にあった発表ができたと考えられる。各クラスで発表形式が異なっていた。3 組はスライドを使わずに、シナリオを作ろうと言ってしまったため、文章を読むだけの人が多かった。2 組はクイズをしようとした児童たちがいた。1 組はスライドを見せながら、発表する児童たちが多かった。

(3) 児童の作品から

図 36 は実際に児童が作成したプレゼンシートである。このグループは、友達の性格を kind と表現する際、イラストを用いて紹介している。また、できないことには×を書くといった、イラストで 3 年生に内容が伝わりやすいように工夫していることが分かる。一人につき数枚のプレゼンシートを作成し、本番はそれを見せながら友達の紹介を行った。それぞれが友達の好きなこと、得意なこと、苦手なことを聞き、その情報をイラストや写真を使ってどのように 3 年生に伝えると分かりやすいかを考えることができた。

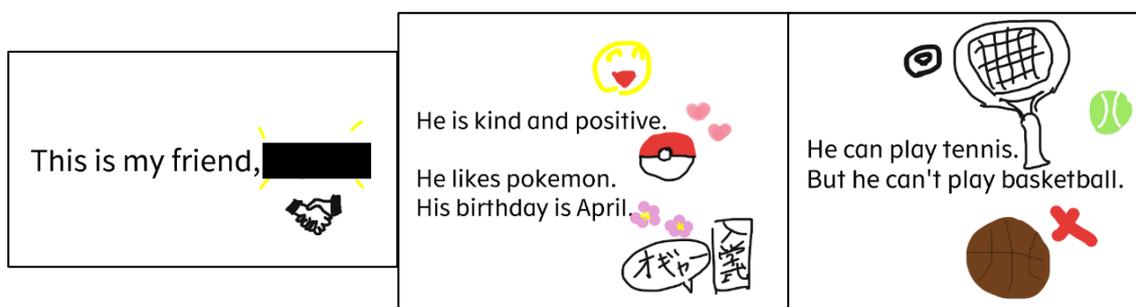


図 36 児童が作成したプレゼンシート①

図 37 と図 38 はそれぞれ、5 時間目と、9 時間目の同じグループが作成したプレゼンシートである。5 時間目の時は、2 人でやり取りしているように発表しようとしていたが、教師がグループで協力してプレゼンを作ろうと声をかけたところ、最終的には、グループ 4 人で分担して、イラストやスライドを区切って見やすくしたり、英語で文章を書いたりしていることが分かる。

台本

二人でハロー
 ヒーキャンプレイサッカーアンドプレイザドラム
 イェスアイキャン
 ヒーキャントウスタディー
 ノーアイキャントウ
 シーキャンプレイザピアノアンドダンス
 イェスアイキャン
 She can't her room
 No I can't
 バイバイ

図 37 5 時間目に作成したプレゼンシート



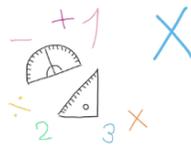
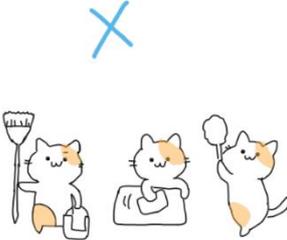
<p>Hello He is ■■■ He can play soccer and play the drums</p> 	<p>He can't study or play bowling</p> 	<p>He can't do math</p> 
<p>She can't clean her room</p> 	<p>She is ■■■ She can play the piano and dance</p>  <p>He is Ryoichiro He can play tennis and dodgeball</p>	

図 38 9 時間目に作成し直されたプレゼンシート

図 39 のように日本語訳を英文の上を書く児童もみられた。クイズ形式で出題していたグループ、強調するために文字の色を変えているグループ等、グループごとに様々な方法で紹介していた。

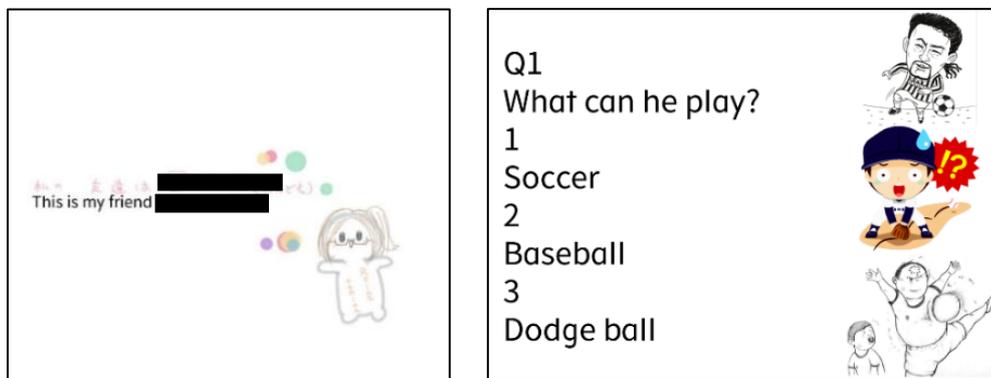


図 39 児童が作成したプレゼンシート②

4. 気づき・考察

(1) 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導

実践 1 と同様に、大切にしてほしいこととして 4 つの Good ポイントの観点から、机間指導を行い、児童たちの行動を価値付けていった。机間指導していく中で、前回よりも「先生、この部分するから見て」「付箋ほしい」という児童の声を聞いた。実践 1 ではあまり付箋を配ることができなかったこともあり、実践 2 では端的に、できるだけ多くの児童のやり取りを見ることができるよう心がけた。(図 40) 外発的な動機付けではあるが、付箋が欲しいからここを意識するという児童の姿を見ることができた。動画を全体の場で、児童のやり取りを共有することもできるが、実際のそれぞれの児童のやり取りに教師が介入して価値づけるということも効果的であると感じた。



図 40 教師が児童の行動を価値づけている様子

(2)教師による目的・場面・状況の設定

本実践では、目的を3年生に友達を紹介することで、「5年生すごい!」「仲良くなりたい」という気持ちになってほしいということ共有した。(図42)場面を3年生との交流、状況を外国語活動が始まったばかりの3年生に友達を紹介することとし、実践を行った。

図41は4時間目の3年生との交流に向けてグループを編成する際の板書の一部である。3年生と交流するときどのようなことに気を付けるべきかを児童と話し合い、3年生が興味をもてるようなクイズ、ジェスチャー、アイコンタクトといった、3年生という対象に向けて思いを膨らませることができた。外国語科を通して、他学年とつながる、今までの英語の表現を使って話そうとする児童の姿があった。これは目標をクラス外に向けたことの成果であるといえる。

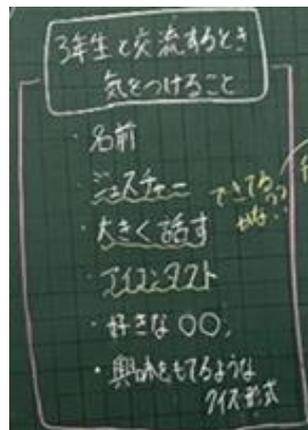


図41 4時間目の板書の一部

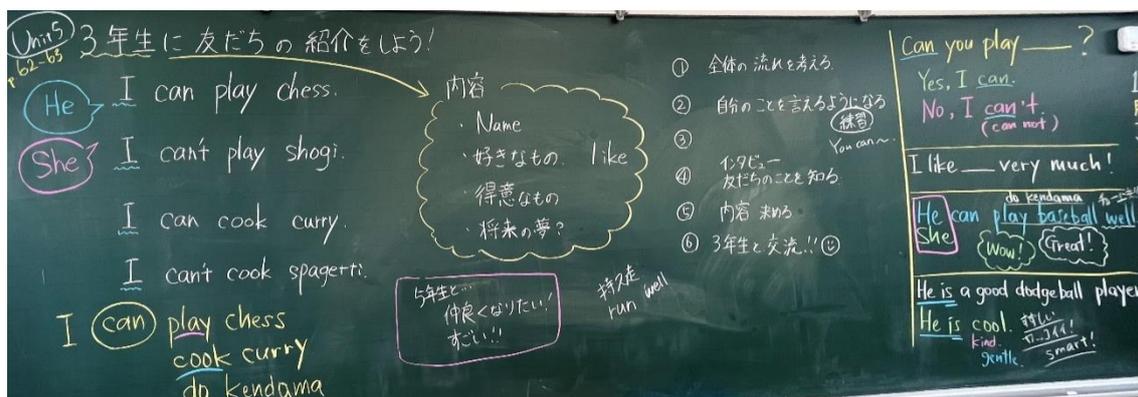


図42 1時間目の板書

(3)児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫

実践2では、ロイロノートを使って、児童たちの行動を振り返ることができるようにした。図43は児童Kの振り返りである。動画を撮影して練習することで、自分がどのくらいのスピードで話しているのかを確認し、見返すことができている。相手にとって早いスピードだと児童Kは感じたため、次はゆっくり話したいとしていることが分かる。

ふりかえり

今日、三年生に見せるスライドを作って、動画を撮ってみました。いざ撮ってみると、緊張したり、何を言うのかわからなくなってしまったので、今度動画を撮るときには、緊張をせず、ゆっくり喋り、相手にわかってもらえるように話したいです。

図43 児童Kの振り返り

図 44 は、他のグループの発表動画を見て、評価をしたワークシートである。内容面と表現面で評価をさせた。他のグループの良い部分、足りない部分を伝える機会となった。理由とせずにコメントとして書かせると、前向きなコメントが増えるのではないかと感じた。評価する上で、「友達の良さが伝わるのか」「3年生に分かりやすく伝わるのか」の2つの視点を設けたが、内容・表現を2つの視点それぞれに書かせる必要はなかったと思った。具体的に内容には、どのような工夫ができるのか、表現にはどのようなことが当てはまるのかを明確にするべきだと感じた。

<p>G班 友達の良さが伝わる内容、表現になっているか</p> <p>内容: <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>表現: <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>理由: ■■ちゃんは、■■君の好きなもの・できること・嫌いなこと・できないことなどをしっかりジェスチャーしながらやっていたから、わかりやすい。でも、■■君はもうちょっとジェスチャーしてもいいと思った。</p>	<p>G班 3年生に分かりやすい内容、表現になっているか。</p> <p>内容: <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>表現: <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p> <p>理由: 内容は面白いし、3年生も楽しめると思うけど、もうちょっと聞き取れなかった人のために表現を工夫した方がいいと思いました。</p>
--	--

図 44 他グループを評価したワークシート①

図 45 には、他のグループの発表をみて、真似したいという記述がある。他の班の評価もするが、それと同時に自分たちのグループの発表と比較し、良いなと思ったところ是可以取り入れることができるため、この時間は有効的だったと思う。しかし、動画まで取り終えることができなかったグループもいたため、じっくり見直す時間を設けることができなかった。児童たちの中でもっと単元の見直しをもたせる手立てが必要だと感じた。

<p>8班 友達の良さが伝わる内容、表現になっているか</p> <p>内容: <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>表現: <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/></p> <p>理由: 内容はlikesとかcanとか使っていてわかりやすかったけど表現はジェスチャーと表情(スマイル)がなかったので改善した方がいいと思います</p>	<p>9班 友達の良さが伝わる内容、表現になっているか</p> <p>内容: <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>表現: <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>理由: 最初に名前を全員言っていてわかりやすくて真似したいと思いました。もう少し声を大きくした方がいいと思いました。</p>
---	---

図 45 他グループを評価したワークシート②

図 46 は各グループの振り返りである。3年生と対面して紹介することに対し、緊張して早口になったり、表情が硬くなったりしたという振り返りが多く、練習通りにできなかったグループもいたようだ。しかし、実際にグループの交流を見ていて、「分かった？」と3年生に聞く姿や英語やジェスチャーを使って伝えている姿も見られたため、相手のことを考えながらやり取りしていたグループがほとんどだったと感じた。また、ジェスチャーやアイコンタクトといった4つの Good ポイントから振り返りを行っているグループが多かったことから、日頃のやり取り練習での机間指導の効果が出ていると感じた。

<p>ふりかえり できたこと A班</p> <ul style="list-style-type: none"> • 三年生の目をちゃんとみて発表できた • コミュニケーションを上手くとれた • ジェスチャーができた • 三年生がわからないところは、後から翻訳できた（三年生に聞けた） • 三年生が楽しく聞ける工夫をした（雰囲気） • 友達を紹介するだけでなく、後から質問コーナーを英語で出来た 	<p>振り返り できなかったこと A班</p> <ul style="list-style-type: none"> • 覚えられていない • 英文間違えすぎた（sheなのに heを使っているなど。） • 話す人の表情がなかった
<p>B班で 3年生との振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> • 楽しくなさそうだった • 話を聞いていない • 話が短かった • ジェスチャーをあまりしていなかった • 話が進みずらかった 	<p>グループの振り返り 良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 声をハキハキと行った。 • 英語を日本語に翻訳した。 • ジェスチャーをいっぱいした。 • 質問タイムが結構取れて深まった。 • 僕たちから質問したりした。 • 表情もあまり固くなかった。 • 三年生も言ってくれて楽しかった。 • イラストも見せた <p>悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 少し早口だった。 <p style="text-align: right; color: red;">C/F/H</p>
<p>振り返り 4班</p> <p>欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジェスチャーができなかった • ハキハキ言えなかった • 英語が止まってしまった • 発音をもっと綺麗に • 早口になっていた <p>良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本語に翻訳できた • 3年生がわかるかどうかを確認しながら進んだ 	<p>5班</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ジェスチャーが良くできた。 ■ 三年生とお友達になれた。 ■ 空気が和んでたから言いやすい <p>みんな 一組目が一番やりやすかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の趣味をみんなで共有できた。 ■ みんなのことも知れた。 ■ みんなが積極的に質問してくれて嬉しかった。

<p>F班 ふりかえり</p> <p>【悪い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 言葉を言うのが早かった • 時間があまりすぎた • 相手にあまり確認していなかった • 相手の目をあまり見ていなかった • ジェスチャーがあまり出来なかった • 他の人が説明しているとき暇になっていた <p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> • イラストを使いわかりやすく説明できた • 確認しながら進めていた • わからない漢字があればふりがなを振って説明できた • 順調に進められた。 	<p>7班 (G班)</p> <p>反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジェスチャーができなかった (最後はできた) • ふざけすぎ (盛り上げようとして) <p>よかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 笑顔でできた • 確認できた • 三年生が楽しんでくれた
<p>H班 (8班)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不安があった (自信も) • ちょっと練習不足だった • 分かりやすが欠けた (ジェスチャーとか) • 内容がちょっと薄かった • そっせんして発表できなかった • 笑顔がなかった 	<p>9班</p> <p>いい点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最後の班は1回目と2回目の反省を活かしてうまくできた <p>悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 声が小さかった • 日本語を使ってしまった • 恥ずかしくてアイパットを顔の方に近づけてしまった <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 普段通りに日本語をしゃべるみたいに英語をしゃべって緊張を減らしたこと

図 46 各グループの振り返り

3年生との交流を経て、撮り直した9時間目の動画を見て、どのグループも4人のうち、1人の紹介を2人で行ったり、3人で分担したり、ペアで紹介しあったり、それぞれのやり方で友達を紹介していた。ジェスチャーや目線、日本語訳の入れ方も工夫されていた。例えば、3年生が分からなそうなところのみ日本語訳を入れるというようなものである。英語が苦手な児童に対してこっそり教えてあげるような姿もみられた。

図 47 は児童 J の単元の振り返りである。単元全体を振り返って、ジェスチャーと目線の重要性を述べている。他の教科でも、単元でも生かしていきたいという汎用性を高めることができた。日本語訳で伝える以外のノンバーバルコミュニケーションについて学ぶことができたようだった。

Unit 5 単元の振り返り
 私がこの単元で意識したことは2つあります。1つはジェスチャーです。友達のいいところ、例えばその子が思いやりがある人なら手でハート♥を作れば多少は伝わると思います。他にもいろいろあるけど、全部に共通しているのは、ジェスチャーをすることによって相手により伝わりやすくなるということが改めてわかりました。これからは外国語の時間もそうだけど、算数の時間の説明や社会の時間の調べ学習の発表の時にも使いたいです。そしてもう1つは、目線です。わたしは今まで台本のタブレットの方を見ていたけど、同じグループの(ちゃん)の動画を見てハキハキと言いながら目線は、動画しているカメラの方や紹介する人の方を見ていました。なのでわたしも(ちゃん)みたいに目線をちゃんとしたので、学校の授業以外でも発表練習をしました。今回の単元で意識していたことはここで終わらないで、これからも意識していきたいです。

図 47 児童 J の単元の振り返り

図 48 児童 L は、今回のグループ編成でいつもはあまり関わらない人とペアになっていたが、3 年生との交流の発表を考えた中で、いつも一緒にいる人ではなく、クラスの友達の良いところに気付くことができたことが分かる。児童 J と児童 L は同じグループであったことから、互いに良い刺激をもらっていたことが分かる。

単元の振り返り
 この単元を振り返って、他己紹介を三年生に向けて試してみ、緊張感があったけれど、三年生が最後まで自分の他己紹介を聞いて最後のクイズで、「ここはこう言うことだった!」と言ってくれたり逆に、「ここってこうなの?」と問いを言ってくれたりしてとても言いやすい雰囲気を出してくれて緊張感がなくなりました。また練習を一緒にしてくれた ■■■ さんが私を紹介する時にわかりやすいジェスチャー (cook だったら料理をしているところ) をしてくれて、真似してジェスチャーをできたのも嬉しかったです。話は変わりますが、この単元で習う英単語をしっかりと覚えられて会話で使ううなずき等もしっかりつかえていて、英語面でもうまくなったと思います。

図 48 児童 L の単元の振り返り

図 49 は児童 O の振り返りである。見てみると、インタビューを互いにし合うときに友達が同じところを好きだったことに気付いている。グループ編成を工夫すると、いつもは見えてこない友達の意外な一面を知ることができ、他者を思いやり、認め合うことにもつながってくると考えた。実践 2 については、3 年生の担任の先生からは、3 年生も良い経験になったようでしたという声をいただいたが、3 年生にとっては聞くだけになった活動になってしまったため、3 年生、5 年生の両者に必然性が生まれるような目的を設定する必要があると感じた。3 年生から 5 年生へインタビューする活動を入れることをしても良かったと思う。

2. 今日の学習を通して、難しかったこと、頑張ったこと、考えたこと、この先に生かしたいこと
 今日ハシナリを習った。私がゆうたろうになにか好きだ
 聞いてみよと同じ遊んで同じ場所が好きだった
 ので、びっくりしました。私が今 Aa ことばの
 中で相手と会話することだ、スゴいことだ
 と思った。

図 49 児童 O の振り返り

第3章 総合考察

第1節 研究の成果

本研究は、筆者が教育現場に出た際、相手の立場に立って物事を考えることのできるような思いやりのある児童たちを育て、そのような学級にしたい、そして非常勤での、外国語科における児童の様子や授業の内容を振り返り、外国語科の中で思いやりを育成したいという思いから、主題を「小学校外国語科における思いやりの育成を目指した授業実践」と設定した。そのため、先行研究からロールプレイングや児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導を取り入れ、実践を行ってきた。

アンケート結果からは、年間を通して児童たちの思いやりの行動が増加し、友達の思いやりのある行動にも目を向けることが増えたことから、学級経営の中で、外国語科が思いやりを育成するための手助けになったことがうかがえる。

2つの単元を通して自己評価が上昇した2名の児童については、学校生活の中で体育祭や遠泳などの行事を経て、一人は運動会で応援団をしたこともあり、何事にも率先して取り組み、男女の別なく関わることができると担任の先生からも評価が高い児童だった。もう一人についても、一面ではなく多面的に他者のことを理解することができるようになってきた、思慮深いと担任の先生から教えていただいた。このように、彼らは介入時期を通じて成長していったと考えられる。

自由記述については、思いやり行動に目が向いていないと思っていた児童たちの自由記述は変化することがなかった。これは、1、2つの単元の授業だけではなく継続的に関わり、育成していく必要があると思った。思いやり行動について書いている記述が特に変わらない児童もいた。自己評価が上昇した2名の自由記述は以下のとおりである。

Tさん	5月：怪我した友達を保健室へ連れて行って人
	7月：相手のためにしている
	10月：最近みんな1人である人が少ない。
	11月：クラス内では誰でも参加OKな全員遊びを遊び係で計画している。

Mさん	5月：ないです。
	7月：怪我をした低学年を保健室に連れていっていた。
	10月：1人の人がいたら1人1人みんな意識していること
	11月：1人になっている人がいたら自主的に声をかけていた。

Tさん、Mさんともに一人になっている人がいる人に目を向けている。特にMさんは5月時点では友達の思いやり行動はないとしていたが、年月が経つにつれ、友達の行動に目を向けるようになっていくことが分かる。

Hさん	5月：友達がトイレのスリッパを並べていた。
	7月：Kさんが朝、自分から全部の窓を開けていた。
	10月：友達が外国語の授業で困っている人に単語が言えるようになるまで教えていた。
	11月：私は木曜日休んでいて、金曜日は祝日だから、その日に給食袋を持って帰らないといけなかったけど、Kさんが私の分まで持って帰っていたこと。

Hさんの自由記述には、外国語の授業でのことが思いやり行動に書かれていた。このことから、外国語の授業の中で行った活動で思いやりを感じることができた児童がいたことが分かる。

他にも、アンケートの自由記述から、いつも関わっている人と異なる人の名前がでてきた人、意外と友達のことが見えている人、具体的なエピソードをもとに書いている人といった、普段は見えない児童の思考を見ることができた。これは学級経営の中でも共有することにより思いやりについて考えることができるのではないかと考えた。

また、3クラスは同じ内容の授業をしたにもかかわらず、授業の中での反応や取り組みは異なるものであり、思いやりアンケートの結果や自由記述の内容もそれぞれのクラスで特徴が異なり、学級それぞれの雰囲気があると感じた。さらには、外国語科以外でも担任の先生の声かけや学級経営も自己評価に深く影響していると感じた。

外国語科で思いやりを育む上で、全体を通して大切にできたことは、①児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導、②必然性のある目的・場面・状況の設定、③児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫、である。以下に述べていく。

1. 児童同士のコミュニケーションに着目した机間指導

実践1、2の両方において、4つの Good ポイントを具体的に提示し、教師が机間指導で価値づけを行うことで、児童はやり取りの中で、何を意識したら良いのか明確になり、自信になったと考えられる。「付箋が欲しいから」という外発的な動機ではあれども、やってみようと思えるきっかけにつながったのではないかと考えられる。教科書のアニメーションにも反応についてはよく出てくるため、共有しながら、反応の仕方のバリエーションを増やしていくことも、コミュニケーションを行う上で大切なことだと改めて感じた。特に実践2では、相手に対して分かりやすくするためにジェスチャーを積極的に使う児童の姿もあった。教師が机間指導で価値づけたり、児童同士で価値づけ合ったりすることの大切さを学んだ。児童たちが実際にやり取りをして、されて嬉しかったことを実体験として感じるができる時間がもっとあればよかったであろう。自分が経験した思いやりの行動を今度は、相手にもしたいという思いへ変化すると考えられる。外国語科において、相手によって話し方や文化によって接し方を考えることは必要である。ジェスチャーやイラストを使って伝える、日本語ではなくても分かりやすかったと言われることでより4つの Good ポイントを大切にしようという意識が芽生えるであろう。

2. 必然性のある目的・場面・状況の設定

児童たちが何のために英語を使って話すのかという目的・場面・状況を教師が設定することはとても重要であると感じられた。ただ、「この文法を使って話す」という、目的に必然性が乏しいやり取りではなく、この目的を達成するために、「必要のある内容」、「やってみたいと思える内容」を工夫することが外国語科では何より大切だと考えられる。今回の実践では、必然性の部分ではまだ検討すべきこともあると感じたが、日本語ではなく、外国語というだけでハードルが上がってしまう児童もいるため、まずは「ワクワクするような単元を作る」ことが必要であると感じた。また、クラスで互いのことを知れるような活動、グループ編成といった「場の設定」も重要であると感じた。実践1においてはグループ編成にこだわらず行ったが、実践2においては、クラスの実態、状況を見て意図的にグループを編成した。実際、他教科においても自由にグループを作らせると同じメンバーで活動しているのをよくみかけていたため、本研究で、いつも関わらない人とグループで協働的に学んだ経験は、学級での思いやりを育成することに貢献できたのではないかと考える。教科書の内容だけではなく、教師が「どのような目的・場面・状況を設定するか」次第で児童たちの意欲が高

まると思われた。例えば、「こんな人のために英語を使って話そう」と考える時、その存在が具体的であればあるほど、児童たちは思考力・判断力・表現力等を使って英語を使って話すことが予想される。外国語科の中で、ロールプレイングを行うことは、相手の立場に立ってやり取りする上で効果的だと感じた。児童たちの意欲向上につながったであろう。

3. 児童たちが自分の思いやり行動を振り返るための工夫

実践1では、ワークシートを工夫し、実践2ではロイロノートで動画撮影をしながら見直すという方法をとった。ワークシートでは、自分の行ったやり取りを振り返るきっかけとしてワークシートを配ったが、文字に起こすことで次の時間ではFaceを頑張ろうとする児童がいて、自己評価をすることができるため、効果的であったと思われる。ただ、動画を通してだったり、自分の授業内の行動を振り返ったりするための時間は毎時間、確保する必要があると感じた。また、クラス内の友達からの評価、3年生からの評価といった、自分以外の人からのフィードバックも有効的であった。友達からのサインがもらえるというだけでやる気を出した児童もいたため、自分のしたことが何かしらの形で還元されるということも必要なのだらうと感じた。

第2節 今後の課題と展望

本研究を通して明らかになった今後の課題を4つ挙げる。

1つ目は、グループワークの差が生じてしまったときのアプローチの方法である。授業をしていく中で、グループ編成を工夫したといえども、児童同士だけでは上手く進まないグループがいたり、反対にどんどん進んでいくグループがいたり、グループごとで活動に差がでてしまったとき、教師の声かけ、机間指導をもっと効果的にしていく必要がある。例えば、困りごとを全体で確認する機会を設け、みんなで解決する時間があっても良かったと思う。また、思いやりを育成するといえども、英語が苦手という児童にとっては、何回も練習する、楽しく練習する、まちがえてもいいという雰囲気づくりが大切になると感じた。加藤ら(2019)は、目指すべき小学校外国語教育のあり方について、「①間違いながら言語を使う、②実際の場面でも使える言語を使う、③伝えたいという思いが言語に込められている」ということではないかと述べている。それを実現するためには、児童が苦しくならないように、音声中心の学習を意識し、チャンツや、少しの合間に発音させる機会を授業の中でちりばめる必要があると感じた。

2 つ目は、振り返りの時間を十分に確保することができなかつたことが課題だと考える。授業の内容を変更したため、難易度が上がってしまった部分もある。教師がしたいことと、児童がしたいことをすり合わせ、目的に照らし合わせながら教師が、時間を配分し、授業を計画通りに進めていくことも必要なことだと思った。活動をやりっぱなしで終わった児童も多いため、振り返りをする必要性を児童と共有し、この時間からは絶対に振り返りを行うことを児童にも伝え、自分の行動の振り返りをさせると良いと思った。また、児童に常に単元の見通しをもたせるために、単元を通して 1 枚のロイロノートに振り返りや記録をためていく方法も効果的だと考えた。そうすることで、1 枚で単元の学びを可視化でき、児童にも単元全体の流れを把握させ、振り返りや活動を有効的に使えると考える。

3 つ目は、思いやりを育成するために他教科と教科横断的にしたり、学校行事に合わせたりと実施していくということである。実践期間中も道德の授業でまさに、友達の良いところを見つけようといった題材が扱われていることがあった。今回は上手く結びつけることができなかつたが、道德や国語の中でも言語活動という部分や、思いやりの視点において共通することがあると感じた。他教科の中でも思いやりの視点からアプローチし相互に関連させながら授業を作っていきたいと感じた。

最後に担任の先生の学級経営についてだが、私が目指す思いやりのある学級に関連して、参考になる部分があったため紹介する。朝の会で、ティッシュ、ハンカチの確認をペアで確認したり、15 秒黙想し、その日の目標を自分で考え、ペアに伝え合ったりする。道德の時間に自己省察の時間を設けて、道德の時間を大切にされている。健康観察で健康と $+\alpha$ のお題に答えたり、机の配置は後ろの児童にも視線が行くように前に詰める、あまり発言しない児童、目立たない児童も授業の中で活躍ができるようにしたりしている。聴くことを大切にされており、毎日日記、生活の確かめで他の友達の家族等について知る。反応、頷くなどについては他の授業の中でも声かけがされていた。このような取り組みがクラスの聞くことに対する姿勢や、支持的風土づくりに適していると考えた。普段からの協働的な学び、聞くということを大切にされている先生の取り組みが影響している。授業だからこそ、グループを工夫することで協働できる時間が増える。5 年生は特にグループが固定しがちであるため、そのようなことを学級経営にも組み込んでいきたい。現場に出て実際に学級経営を行う中で、外国語科だけではなく他教科での思いやりを育む取り組みを行い、他者のよさを認め、考えることのできる児童が育つような学級経営をしていきたい。

引用・参考文献

石濱博之（2002）公立小学校における「レストランごっこ」を主体にした英語活動に関する授業実践―「ごっこ遊び」は子どもの主体的な活動を促すか―. 日本児童英語教育学会研究紀要, 22, 137-152.

加藤・狩野・東（2021）小学校英語サポート BOOKS 小学校外国語活動・外国語 にとっておきの言語活動レシピ. 明治図書.

文部科学省（2002）小学校学習指導要領解説 外国語活動編.

文部科学省（2008）小学校外国語活動サイト 関連資料 小学校における英語教育について（外国語専門部会の審議の状況）（平成 18 年 3 月 31 日）本文.

文部科学省（2008）小学校外国語活動サイト 関連資料 平成 19 年度小学校英語活動実施状況調査及び英語教育改善実施状況調査（中学校・高等学校）について「小学校英語活動実施状況調査（平成 19 年度）」の主な結果概要（小学校）.

文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説 外国語活動編.

文部科学省（2008）別冊 人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] 実践編 3. 指導方法の在り方.

文部科学省（2008）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善（答申）.

文部科学省（2017）小学校英語活動実施状況調査概要（平成 15 年度実績）.

文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 総則編. 第 1 章総則の第 1 の 2 (2)

文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 特別な教科 道徳編.

文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語科編.

文部科学省（2017）中学校学習指導要領 外国語編.

文部科学省（2017）小学校学習指導要領 外国語活動・外国語編.

文部科学省（2017）小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック.

直山木綿子（2019）なぜ、いま小学校で外国語を学ぶのか. 小学館.

大分県教育委員会（2018）教育庁チャンネル：どう教える？小学校英語 6 We Can!2（小

6）Unit8 What do you want to be? <https://www.pref.oita.jp/site/movie/kyoch-psenglish6.html>

中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）.

中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申).

山村麻予・中谷素之（2012）児童が考える「思いやり」行動とはどのような行動か—小学生を対象にした自由記述欄調査から—. 大阪大学教育学部年報, 17, 31-44.

山崎晃市（2013）「英語ノート」の題材を応用した「ごっこ遊び」の授業実践とその効果—言語材料に児童の好きな食材「寿司」を取り扱って—. 教育実践研究 上越教育大学教育実践研究センター, 23, 217-222.

謝辞

本研究の遂行にあたり、多くの方々にご協力とご支援をいただきました。いつも温かくお声かけをさせていただいた研究協力校の校長先生をはじめ、先生方、児童たちに深く感謝申し上げます。特に学級担任の先生におかれましては、お忙しい中、快く学級に受け入れて下さり、研究に多大なるご協力をいただきました。授業だけではなく、日頃の子どもとの関わり方や学級経営について等、多くの学びを得ることができました。ご助言、ご指導をいただき心から感謝いたします。また、未熟な私を受け入れてくれた5年1組の子どもたちに感謝いたします。

最後に、黒山竜太准教授、浦川健一郎シニア教授には、本論文の執筆にあたり、終始、温かいご助言、激励をいただきました。深く感謝申し上げます。

巻末資料

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 6月23日(金) 第3校時(10時30～11時15分)
2. 場所 5年1組教室
3. 単元名 Unit7 What would you like?(p82-83)①
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

食べ物や飲み物の言い方を知ることができる。

(2)展開(1 / 6)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ Small Talk What would you like? I'd like ~. と What do you want? I want ~. の違いに気付く。 前時の学習と比較して… 友達にほしいものを聞くときと店員さんがほしいものを聞くときでは言い方が異なることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レストランや身近なところで店員さんとの具体的な場面を思い出させる。相手が心地よくさせるような接客ができるようにする。 Response, Gesture, Eye contactなどを意識してやり取りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この単元でのゴールを相手の気持ちを考えながらやり取りすることを 思いやりを持って受け答えしていこう!
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教 p82-83 ・ 聞き取れた表現、食べ物の言い方を共有する。 Cheeseburger, hamburger, spaghetti, salad, parfait ・ 熊本に初めて来たお客さんに料理を提供するということを目的 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本で有名な食べ物、農作物を使ったメニューをグループで考えるようにする。 (4年生の社会の学習を振り 	

	<p>にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メニューを考える。 (グループ) 	<p>返りながら…)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使いグループで飲み物1つ、料理4つ考えるようにする。 	
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間にできるようになったこと・友達の発言が自分の考えにどのような影響を与えたか・次時に向けて解決したい困りごと、よりよくしていきたいこと。 	

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 6月26日(月) 第4校時(11時25分～12時10分)
2. 場所 5年1組教室
3. 単元名 Unit7 What would you like?(p84-85)②
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

ていねいな言い方で料理を注文することができる。

(2)展開(2 / 6)時間

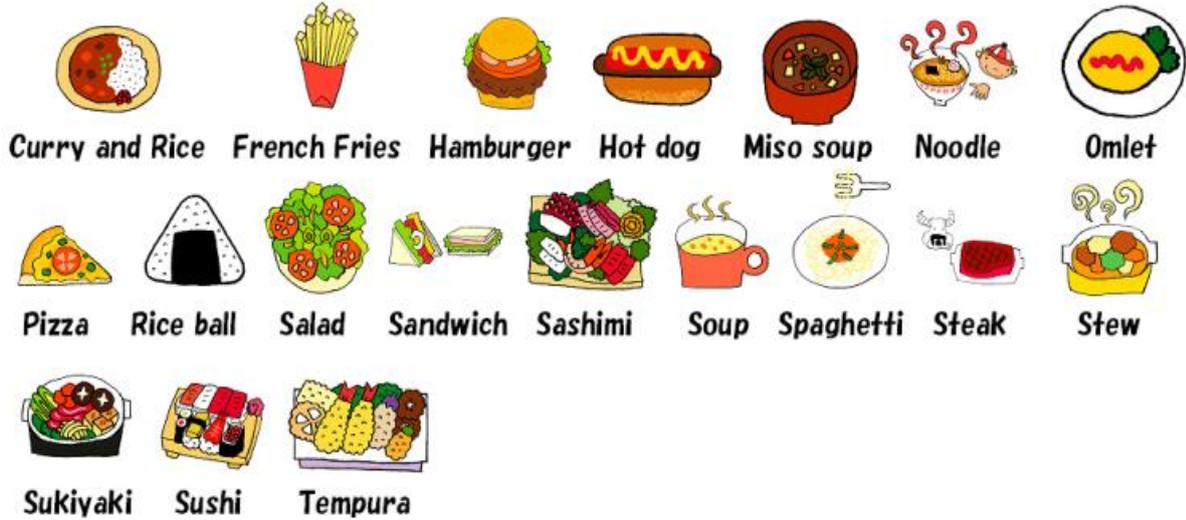
時間	活動内容	指導上の留意点	思いやりの視点・備考
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ 前時の復習をする。 What would you like? I'd like ~. 		
展開 30分	Today's goal: ていねいな言い方で料理を注文しよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ p84-85 Let's listen をする。 ・ 前回、思いやりや相手を思って受け答えしようといったことから4つの Good ポイントについて説明する。 ・ ワークシートを配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ How about ~? や No, thank you. といった表現に親しむ。 ・ 食べ物や飲み物の英語での言い方を復習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Face 目線・表情 ・ Gesture ジェスチャー ・ Reaction Response 反応 ・ Make sure 確認 の4つの説明をした後、活動をしながら、良かった児童に付箋を渡していく。

	<ul style="list-style-type: none">・まわりの人と注文をしたり、受けたりする。		
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none">・振り返りを記入する。		<ul style="list-style-type: none">・ワークシートに授業内で示した4つの Good ポイントを意識できたか、自己評価できる欄を設ける。

Unit7 What would you like? ②

5- _____ No. _____ Name _____

Today's goal: ていねいな言い方で料理を注文しよう!



Your friend's name	友達が注文した料理

★振り返り

・料理を注文するときや受ける時に相手の気持ちや立場を考えてやりとりできましたか?
 1 2 3 4 5

・そう考える理由

・4つの Good!ポイント ◎○△

Face 目線・表情	
Gesture ジェスチャー	
Response・Reaction 反応	
Make sure 聞き返す	

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 6月30日(金) 3校時(10時30分～11時15分)

2. 場所 5年1組教室

3. 単元名 Unit7 What would you like?(Here we go, p86-87)③

単元の目標：料理や注文、値段等について丁寧な言い方で尋ねたり、答えたりして伝え合うことができる。

4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

ものの値段をたずね合うことができる。

(2)展開(3 / 6)時間

時間	活動内容	指導上の留意点	思いやりの視点・備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? / I'm ~. ・ 前時の復習を行う。 “What would you like?” “I'd like ~.” “How about ~?” ・ 本日の流れを確認する。 ・ 値段の言い方、たずね方を知り、たずね合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理を注文するときの表現を覚えているか確認させる。 ・ まだ料理の注文の仕方が難しいという人もいたため、本日も繰り返しその表現を使っていくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様の立場に立って思いやりをもって活動に取り組んでいくことを伝える。どのようにしたらよく伝わるか。
展開 20分	Today's goal: ものの値段をたずね合おう！		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 p 86-87 Let's listen. をする。 “How much is it?” “It's ~yen.” 	<ul style="list-style-type: none"> ・ hundred の言い方を練習させる。 	<u>4つの Good ポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ Face 表情・目線 ・ Gesture ジェスチャー ・ Response Reaction

10分	<p>の表現を聞き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配る。 料理の値段を決める。 ・メニューを完成させる。 金額まで設定する。 店名も可能であれば決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が 1500 円以内で料理を注文してくるよう伝える。 ・シンプルな名前にすること、ぱっと見てどんな料理かわかるように。 	<p>反応を返して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Make sure 確認して ・ 4つの観点を見ながら付箋を貼っていく。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日学んだこと、次時で解決したい困りごと、友達の良かった発言等を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの Good ポイントを自己評価する。 ・相手のことを考えながら活動できたか、振り返り、その理由も書く。

Unit7 What would you like? ③

5- No. Name

Today's goal: ものの値段(ねだん)をたずね合おう!



Basashi

yen



Ramen

yen



Karashi renkon

yen



Dago soup

yen



Ice cream
Soft cream

yen



Parfait

yen



Ikinaridango

yen



Crepe

yen

・1500yen 以内で料理を注文しよう! ※1人につき1つだけ注文する

Your friend's name	自分が頼んだ料理	値段(ねだん)
		yen

合計 yen

★振り返り

1. 相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やりとりできましたか？
できなかった 1 2 3 4 5 できた
・そう考える理由

4つの Good ポイント◎○△	
Face 目線・表情	
Gesture ジェスチャー	
Response Reaction 反応して	
Make sure 確認して	

2. 今日の学習を通して学んだこと、友達の良かった発言、次時に向けて解決したいこと

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 7月3日(月) 第4校時(11時25分～12時10分)
2. 場所 5年1組教室
3. 単元名 Unit7 What would you like?④
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

お客さんにおすすめする一言を考えることができる。

(2)展開(4 / 6)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ 本時までに学習した内容を復習する。 料理の注文をうかがったり、注文したり、値段をたずねたり、答えたりするときに表現。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ What would you like? I'd like ~. ・ How much is it? It's ~yen. これらの表現の発音を復習できるようにする。 	
展開 (33分) 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk ALT と教師で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで行った Small Talk との違いに気付かせる。 お客役が注文に悩んでいる場面を設定し、店員が料理をすすめる。 ・ What taste do you like? I like (sweet, spicy, bitter and sour). ・ How are you? I'm (thirsty, hungry and fine). ・ It's (the best season now, 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客さんの立場に立って考え、料理をどのようにおすすめしたほうがよいのか考える時間を設ける。

		delicious, from～. It uses～.)	
	Today's goal: お客さんに料理をおすすめする一言を考え、練習しよう。		
10分 18分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを確認する。 ・グループでメニューと値段（4つの食べ物、1つのドリンク）を決める。 ・おすすめの一言をいえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で簡単に言えるようにシンプルな名前にするように促す。(あくまで英語を使って学ぶことが目的) ・グループ内でペアになって練習しながら、おすすめの一言や注文をする、答える練習をさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・価格などの設定もこのようなお客さんに接客することを想定してという相手意識を明確にさせる。(家族連れ、誰でも食べてもらえるようになど) ・4つの Good ポイントを意識しながらやりとりさせるようにする。
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをする。 ・児童が店員になりきって、家族の人にレストランでのやりとりの練習してもらうことを伝えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、メニューやおすすめの一言を考えるにあたって、意識したこと、友達の発言で変容したことなどを記入させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を持って(思いやりを持ってやり取りできたか、根拠に基づいて記入させる。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思・判・表】</p> <p>メニューやおすすめの一言を考える際、相手意識を持って料理によって適切な一言を考えることができる。</p> <p>(振り返り・行動観察)</p> </div>

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 7月7日(金) 第3校時(10時30分～11時15分)
2. 場所 5年1組教室
3. 単元名 Unit7 What would you like?⑤
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

レストランごっこ本番に向けて、表現の復習やどのようにやりとりするのかということ意識しながらやりとりの練習をすることができる。

(2)展開(5 / 6)時間

時間	活動内容	指導上の留意点	思いやりの視点・備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ 前時までの復習をする。 注文のたずね方、答え方、値段のたずね方、答え方、おすすめの一言を考えると活動まで行ったことを復習できるようにする。 ・ 前はメニューとおすすめの一言を考えると活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ What would you like? I'd like ~. ・ How much is it? It's ~yen.(hundredも) ・ What taste do you like? ・ It's~. 	
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> Today's goal: レストランごっこ本番に向けて準備をしよう！ </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次が単元最後の時間で、他のグループの人と店員とお客さんに分かれ 	<ul style="list-style-type: none"> T:本番に向けて今日は何をいしたらいいと思う？ C:おすすめの一言を考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの Good ポイントを提示し、意識しながら行うことができる

	<p>て1：1のレストランごっこを行うことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回、おススメの一言まで考えたグループにどのような思いでその一言にしたのかを紹介してもらう。 ・グループでペアをつかって練習する。(動画を撮りながら) 	<p>なきゃ、練習したい！</p> <p>C:熊本に初めてくる人なら、この料理の味が分からないと思うからそれを伝えるために It's sweet. にしました。</p> <p>C:新鮮な果物ということ を伝えたいから It's fresh.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店員、お客さんに分かれてこういう風におすす めしよう！というシュミレーションができるようにする。 	<p>ようにする。</p> <p>これらのことを意識するとどんないいことがあるだろう？と聞いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本に初めてきたお客さんのために分かりやすい、相手を意識した一言、メニューを考えさせる。 ・4つのポイントができてきているか、動画を通して振り返る。
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入する。 ・Home work を出す。 お家の人に協力してもらい、レストランでのやりとりの練習をしてくることを伝える。(お家の人がお客さん役) Feedback をもらってくる。 どうしてもできない人はそれでも可。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業から変更したこと、4つのポイントを押さえながらできたか等を振り返らせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能】</p> <p>レストランでのやりとりを4つのポイントを意識しながら行うことができる。</p> <p>(動画、行動観察)</p> </div>

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 7月14日(金) 第3校時(10時30分～11時15分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit7 What would you like?⑥
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

相手のことを考えながら、レストランでのやりとりをすることができる。

(2)展開(6 / 6)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ 本時までの学習内容を復習する。 ・ 料理を注文するときや値段をたずねる時の受け答え、おすすめをいうときの表現を復習する。 ・ めあてを確認し、本時の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ What would you like? I'd like ~. ・ How much is it? It's ~yen. ・ What taste do you like? I like ~(sweet, tasty...). I recommend ~. It's (from ~/ soul food...). 	
展開 33分	Today's goal: お客様のことを考えながら restaurant でのやりとりをしよう！(本番)		
7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前の時間はグループ内で練習を行ったが、今回は他のグループの人とやりとりをすることを伝える。 ・ おすすめの一言について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、その一言が必要だと思うか、どんな気持ちで言ったら良 	

26分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループではない人とペアを作り、レストランでのやりとりを行うようにする。 ・一人とやりとりが終わったら、次の人を見つけてやりとりを行う。(計3回) 	<p>いかを児童に考えさせる。</p> <p>C: 優しい気持ち。</p> <p>C: 熊本に初めて来た人だから、どんな料理かわかりやすいように、</p> <p>C: 熊本を好きになってもらいたい等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語での一言、思いやりがあると感じたペアを見つけながら中間指導をし、中間指導として全体に共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの Good ポイントを意識させながら行うように、お客さんに書いてもらうワークシートに4つの項目を評価するところを設ける。 ・教師は良かった児童に付箋を渡しながらか、活動を観察する。
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のめあてに立ち返って振り返りを行うようにする。 ・振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を通してどのようなことを学んだか、できるようになったか、活動の中で大切にしたこと、これから大切にしたいこと等を書かせるようにする。 	<p>【思・判・表】</p> <p>相手のことを考えながら、レストランでのやりとりを行うことができた。</p> <p>(行動観察、ワークシート、ロイロノート)</p>

Unit7 What would you like? ⑥

5-__ No.____ Name_____

Today's goal: 相手のことを考えながらレストランでのやりとりをしよう!(本番)

★レストランでのやりとりを練習し、相互評価をしよう!(🌸◎○)

お客さんの名前	F	G	R	M	□	お客さんからメッセージ(具体的に)

★振り返り

1. 相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やりとりできましたか?

できなかった 1 2 3 4 5 できた

・そう考える理由

4つの Good ポイント ◎○△	
Face 目線・表情	
Gesture ジェスチャー	
Response・ Reaction 反応して(うなずく等)	
Make sure 確認して	

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月2日(月) 第4校時(11時25分～12時10分)
2. 場所 5年1組教室
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ①
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

can, can't の使い方を大まかに理解することができる。

(2)展開(1 / 9)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ Small Talk モデルを提示する。 ALT(担任の先生)の例： I can play chess, but I can't play shogi. I can draw pictures, but I can't write kanji well. I can do yoga, but I can't do ballet. →ALT が言ったことを教師が主語を He に変えてもう一度紹介する。 ALT を紹介していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・can のイメージができるように教師が具体例を出しながら紹介する。 趣味、特技など。 上手にできること×能力(できること) できるけど得意ではないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介される友達がどのようなことを紹介されたらうれしいのか考えさせる。 (相手の立場に立つ)
展開 28分	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のゴール： ・お互いのことをもっと知る。 ・3年生にグループごとで1つ 	<ul style="list-style-type: none"> いつもは話さない子と関わってみよう！→どんないいことがある？と問いかけ 	

	<p>のテーマについて紹介し、5年生のことを知ってもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のどんなことを3年生に伝えたい？ <p>C：得意なこと、好きなこと、すてきなところ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることだけでなく、できないことを知ることも1つの友達を知るきっかけになる。 ・教科書 p62-63 を聞いて、必要な表現を獲得する。 <p>can (can't)play volleyball. baseball ,dodgeball</p>	<p>る。</p> <p>C：仲良くなれる、輪が広がる。</p> <p>※あまり広くなりすぎないように、全体で練習ができるような内容になるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの good ポイントを意識しながらコミュニケーションをするように伝える。 ・ That's great!/ Great! / Very nice! 	
<p>まとめ 7分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことでどんなことを言いたい(日本語でも可)、今後どのような活動をしていきたいかをロイロノートに振り返りとして書く。 		

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月5日(木) 第2校時(9時35分～10時20分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ②
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

できるかどうかをたずね合うことができる。

(2)展開(2 / 9) 時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ 既習表現を確認する。 He, She の使い分け can can't、Can you ~? 3年生に自分の友達の紹介をする。 ○単元の大まかな流れを確認する。 友達のできることをインタビューしないといけない。 →まずは、自分のことできることを伝える練習をしないといけないことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先日書いた振り返りで、自分のできること、できないことがわからないって人がいた。どうする? →友達に教えてもらう時間がほしい。 	
展開 28分 (8分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Today's goal: できるかどうかをたずね合おう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ p64 Let's watch を見る。 できるかどうかをたずね合うための英語表現を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Can you ~? Yes, I can. No, I can't.以外にどんな単語が聞こえたかを確認させる。 	

<p>(17分)</p> <p>(3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配る。 <p>I can ～.の種類を把握する。 (the play, play, do)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの Good ポイントを提示する。 ・3年生と交流するとき、ただ英語だけで話すだけでは、伝わらないのではないか。その時に使えるように練習しよう！ ・やりとりを録音しながらやってみよう。 <p>○性格人柄について 先日の振り返りで、自分の性格について書いている人もいた。 自分の周りにはこんな人がいるよ！ 面白い、優しい、かっこいい！</p>	<p>→聞いた人に対して、反応をしている。</p> <p>That's great! / Great! / Very nice! / Me, too!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるかをたずねる際、聞いた側が何かしら反応することを意識させる。 ・友達のいいところを次の時間伝え合うことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの Good ポイントを使って机間指導する。
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り：ロイロで録画したものを振り返り、4つの Good ポイントができたかを振り返る。 ・友達8人(男女4人ずつ)のすてきなところを考えてくるのを宿題にする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・4つの Good ポイントができたか、自己評価を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【知・技】 できるかどうかをたずね合うことができる。 (机間指導)</p> </div>

Unit5 He can run fast. She can do kendama. ②

5- No. Name

Today's goal: できるかどうかをたずね合おう!

Can you ~?
 ○Yes, I can. / △No, I can't.

何人と活動できたかな?

★振り返り

◎今日の活動を通して学んだこと、友達の良かった発言、次時に向けて解決したいこと。

4つの Good ポイント ◎○△	
Face 目線・表情	
Gesture ジェスチャー	
Response・Reaction 反応して(うなづく等)	
Make sure 確認して	

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月11日(水) 第4校時(11時25分～12時10分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ③
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

友達のすてきなところを英語で伝えることができる。

(2)展開(3 / 9)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ 互いに良いところを伝え合う時間にする。(男女4人ずつ) 	He (She) can ~. Can you ~?	
展開 28分	Today's goal: 友達のすてきなところを英語で伝えよう！		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に自分のすてきなところを英語で教えてもらうことで、自己理解が深まる。 次の時間インタビューをする際にも、自分の言えることがふえそうだね。 ・ 具体的な人物を挙げて、性格や具体的なことを英語で共有する。 ・ 言い方が分からない表現は全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の振り返りで自分の性格について書いてくれていた人がいたことも共有する。 You can ~. You are ~. Thank you! kind, cool, interesting, tough, strong, warm, active, 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの Good ポイントを使った机間指導をする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの Good ポイントを自己評価しやすくするために、やりとりをロイロで録画させることを伝える。 ・ 事前に準備した 8 人の人にすてきなところを伝え、伝えたら、サインをもらうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理由は日本語でもいいことを伝える。 ・ 時間があれば、用意していなかった人にも、良いところを伝えてみようと呼ぶ。 	
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を終えての振り返りを全体で行う。 ・ 嬉しかったこと、感じたこと等。 ・ 次の時間はインタビューをしようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 録画したのを見ながら、4つの Good ポイントができていないかを確認する。

Unit5 He can run fast. She can do kendama. ③

5- No. _____ Name _____

Today's goal: 友達のスてきなところを伝えよう!

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">kind 😊</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">cool 😎</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">reliable 👍</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">interesting 🤩</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">その他</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 20px;"> <p>You are . . .</p> <p>You can . . .</p> </div>

1. 相手の気持ちや分かりやすく伝えようと考えながら、やりとりできましたか?

できなかった 1 2 3 4

5 できた

・そう考える理由

4つの Good ポイント ◎○△	
Face(目線・表情)	
Gesture(ジェスチャー)	
Response・Reaction (反応して)	
Make sure (確認して)	

2. 今日の学習を通して、難しかったこと、頑張ったこと、考えたこと、この先に生かしたいこと

第5学年 外国科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月16日(月) 第4校時(11時25分～12時10分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ④
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

3年生に紹介する内容を考えることができる。

(2)展開(4 / 9)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<p>・今まで習ってきたことを復習する。</p> <p>What can you do? I (He, She) can ～. I (He, She) can't ～. Can you ～?</p> <p>教 p64-65</p> <p>・3年生と交流する上で、どのようなことに気をつけるべきか、共有する。</p> <p>C: 内容を絞る、簡単な語彙を使う、ジェスチャー、イラストを使う。</p>	<p>・できること、できないことを紹介するやり方を学んだことを確認する。</p> <p><u>約束</u></p> <p>1人1つは can を使った文章を3年生の前で発表できるようにする。</p> <p>・誕生日の言い方、性格、名前の言い方等</p>	<p>・3年生という対象に対して、分かりやすく伝えるためにどのような工夫ができるのかを考えさせる。</p>
展開 28分	<p>Today's goal: 3年生に友達を紹介するときの内容を考え、友達から情報を集めよう!</p>		
	<p>・3年生と交流するチームを確認する。</p>	<p>・5-2は今のグループで活動する。それ以外は、</p> <p>・わくわく・自信がある</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の友達の情報インタビューし合おう！ ・今後、どのような紹介の仕方で行うのかを決めさせる。 ・ロイロで、自分たちの動画を振り返り、4つの Good ポイントや、3年生に向けて伝わりやすいのかを振り返らせるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安・わくわくミックス ・不安いっぱいだ。 <p>の3つに分けて、グループ分けをする。(各担任の先生にいわれた組み合わせを除く)</p> <p>いつからやり始めたのか/きっかけ等も伝えると良い。</p> <p>委員会などで頑張っていることも伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を代表者が1つ提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの行動を振り返るための動画を撮る。
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをする。学習の振り返りとグループの振り返りを出してもらおう。 		

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月20日(金) 第3校時(10時30分~11時15分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ⑤
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

3年生の交流に向けて内容をグループで決めて練習することができる。

(2)展開(5 / 9)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. ・ インタビューする内容を確認する。 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. What can (can't) you do? I can (can't) ~. 		
展開 28分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人全員の情報を集める。 ・ 録画のやりとりを見ながら、4つの Good ポイントの自己評価を行う。 ・ 3年生との交流の内容を考える。 インタビュー形式でも、発表形式でも、クイズ形式でも可。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生と交流する際、大切にしたいことを再度確認する。 <u>ジェスチャーをする。</u> <u>内容を絞る。興味の持てるようなものにする。クイズ形式?面白く!</u> ・ どのような発表の形式だと、3年生が喜びそうか考えさせる。 ・ どのようにしたらその友達の性格、良さが伝わるかを考えて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生にどのようにしたら分かりやすく伝わるか、友達の良さが伝わるのかについて考える。

	<p>○文章だけだとどうだろう？ 3年生に友達の良さが伝わるかな？</p> <p>イラストや、ジェスチャー、あまりに長いものは日本語訳を使って3年生にもわかるようにする。</p> <p>・1チーム3分くらい</p> <p>Hello! My name is ～, ～, ～ and ～.</p> <p>We want to introduce my friends!</p> <p>First, this is my friend, Jason sensei. He can play chess, but he can't play shogi.</p> <p>He is very kind. Because he always gives me good advice.</p> <p>He can help other friends. (ジェスチャーつきで)</p> <p>4人紹介する。</p> <p>What's this? サクラだ！</p> <p>His birthday is April ～.</p> <p>Do you know ～?</p>	<p>グループ学習に取り組ませるようにする。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<p>・グループとしての振り返り、個人の学習の振り返りをする。</p>		<p>・グループの振り返り相手の考えを聞くことができたか、協力して取り組むことができたかについて書く。</p>

			<p>・個人の振り返り</p> <p>4つの Good ポイントを意識したり、相手に伝わりやすいように内容を工夫したりできたかについて書く。</p>
--	--	--	--

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月26日(木) 第3校時(10時30分～11時15分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ⑥
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

友達の紹介をする台本と練習をすることができる。

(2) 展開(6 / 9)時間

時間	学習活動	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ~. <p>前回の活動で、台本ができているグループの例を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残り2時間で3年生と交流すること、次の時間に一度他のグループと見せあいこをすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色をつけたり、イラストをつけたりして分かりやすく紹介できるようにしていることを共有させる。 ・名前、性格、できること、できないことを伝える。 ・ペアではなく、グループで発表できるように工夫してほしいことを伝える。 	
展開 26分	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで、台本を考える、撮影する。 <p>撮影する目的：4つの Good ポイント、客観的に見て、自己評価を行うため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいっているグループはそのまま、うまくいっていないグループを中心に机間指導を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの Good ポイントの机間指導を行う。
まとめ 12分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの仕方を説明する。 ・振り返りをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの振り返り相手の考えを聞いたり、協力したりして活動すること

			<p>とができたか。</p> <ul style="list-style-type: none">・個人の振り返り <p>撮影した動画を見て、4つの Good ポイントや、3年生に伝わりやすいかについて書く。</p>
--	--	--	--

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月27日(金) 第4校時(11時25分～12時10分)
2. 場所 5年1組
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ⑦
4. 本時の内容

(1)本時のねらい

他のグループの発表を聞き、自分たちの発表内容を考えることができる。

(2)展開(7 / 9)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? / I'm ~. ・ 来週の3年生への発表へ向けて、クラス内で練習会をすることを共有する。 (準備に2分ほど) ・ 今日が最後の練習日なので、どのように発表するのか、録画までして提出することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3グループごとにそれぞれできているところまでで、発表し合い、お互いにコメントを書くようにする。 	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3グループ(3分)×3で発表し合い、他のグループからのコメントを書いてもらったものをもとに、グループごとで作り変える。 ・ 先日の授業で撮影されていたグループがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ うまくいっているグループはそのまま、進んでいないところの支援に回る。 撮影を促す。ひとまず撮ってみて、たくさん練習させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生に伝わりやすいだろうか。 ・ 友達の良さが伝わっているか。 ・ 理由：どんなところが良かった、工夫されていた、ここはもっとこうした方が良いのではないか。(4つの Good ポイ

	ため、それを参考に見せ、 残りの時間はグループ内 で再修正、撮影を行う。		ントをもとに)
10分	・振り返りをする。		・グループ活動の振り返り ・個人の振り返り 他のグループの発表を見て、 考えたことについて書く。

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 10月30日(月) 第4校時(11時25分~12時10分)
2. 場所 視聴覚室
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ⑧
4. 本時の内容

(1)本時のねらい

3年生に英語を使って友達の紹介をすることができる。

(2)展開(8 / 9)時間

時間	学習内容	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生に全体の流れを伝え、3年生を誘導するように伝える。 ・3年生には、分からなければ首をかしげてもいいし、分かったのであればうなずく等をしてくれると5年生も発表しやすいね、と伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計3回行うが、3年生の反応を見て、従来の発表を変えても良いことを伝える。 →より分かりやすく伝える。 	
展開 28分	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに座らせ、友達の紹介を発表する。(3分×3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が余ったところは3年生から質問を受ける時間にする。 	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生、5年生から2人ずつの感想を全体で共有する。(3年生は教室へ戻って感想を記入) 5年生は、活動の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生と交流できてうれしかったな、すてきなところを見つけたよーって人いる？ (全体の感想) 3年生をさっと並ばせて担任に帰らせてもらううちに5年生を集めて振り返りをする。 今日3人ペアを変えてお話したけど、どう変化した？ 	<ul style="list-style-type: none"> やりとりをしている間も様子を見ながらどんな感想が出そうかなと観察する。 どんな手順でペアを変える、具体的に考えておく、5年生にもわかりやすく伝えておく。3年生に教えてあげる。

5年生の発表を聞いて

3 - _____ 名前 _____

1. 5年生の英語での発表を聞いて、話している内容は分かりましたか？

分かった ◎ ○ △ あまり分からなかった

ここは分かった、聞き取れた、ここは難しかった、と具体的に書ける人は書いてください。

理由： _____

2. 5年生の発表を聞いて、どんなことを思いましたか？ 感想を書いてください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 佐藤 遥

1. 日時 11月2日(木) 第2校時(9時35分～10時20分)
2. 場所 5年1組教室
3. 単元名 Unit5 He can run fast. She can do *kendama*. ⑨
4. 本時の学習内容

(1)本時のねらい

3年生からのコメントを読んで、発表の内容を工夫することができる。

(2)展開(9 / 9)時間

時間	学習活動	指導上の留意点	思いやりの視点・評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting How are you? I'm ～. ・全体で3年生との交流での反省点を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに関わってくれた3年生からのメッセージを読み、こんなところにもっと気を付けるべきだった、こうすると分かりやすくなる。ということ共有させるようにする。 	
展開 28分	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生からのコメント、自分たちで実際に発表してみ、3年生に向けて発表するためにどのように変化させるか。考えながら、録画をしよう。 ・グループごとに意見をロイロで書き、共有する。 ・その上で、録画のとり直しをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生からのコメント、自分たちで実際に発表してみ、3年生に向けて発表するためにどのように変化させるか。考えながら、録画をしよう。 ・グループごとに意見をロイロで書き、共有する。 ・その上で、録画のとり直しをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に話してみた3年生の状況に応じて、発表を工夫することができる。 ・分かりやすく伝えるためには、良さを伝えるためにはどのような工夫ができるか今一度考えさせる。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返り、アンケートの記入を行う。 ・3年生との交流も含め、 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の反省、個人的にどのような学びがあったか、気づきを記入させるようにする。 	

	<p>どのようなところを意識して撮影し直したか。を記入させる。</p>		<p>【思・判・表】 3年生との交流で出た反省を生かし、発表を工夫することができている。 (動画・振り返り)</p>
--	-------------------------------------	--	---